

小田川合流点付替え事業に関する工事説明会資料

令和3年11月21日

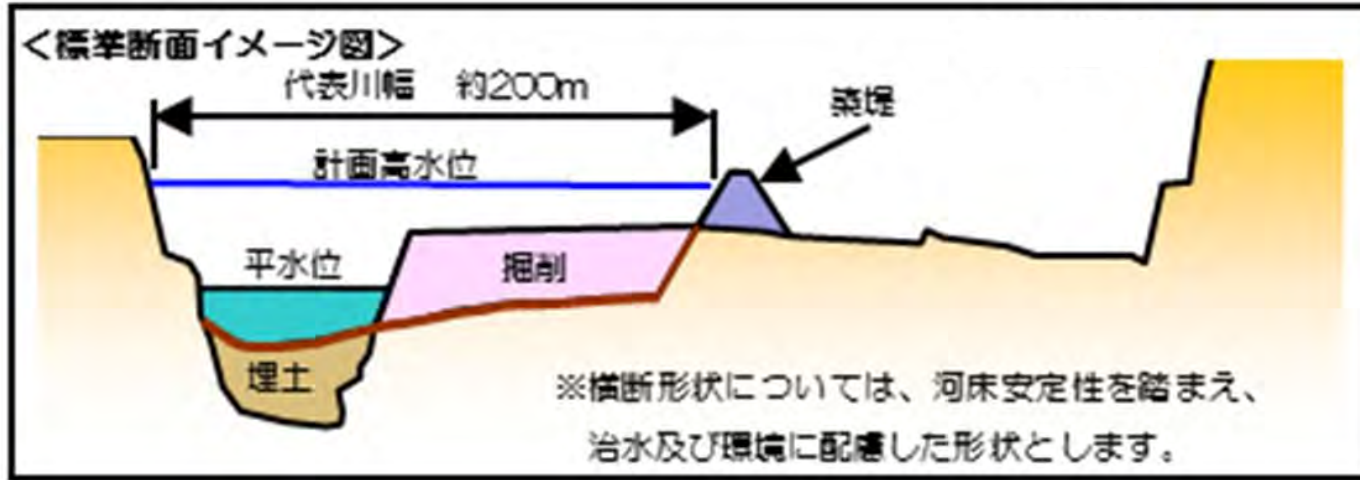
中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

<内容>

1. 工事の進捗と今後の予定
2. 柳井原排水機場の概要
3. 柳井原地区河川防災ステーションの概要
4. 柳井原親水堤防の概要
5. 多様な動植物の生息環境の創出
6. 大谷地区の整備概要
7. 小田川付替え区間の堤防整備計画
8. 歴史文化の保存
9. 高梁川下流地区の整備予定

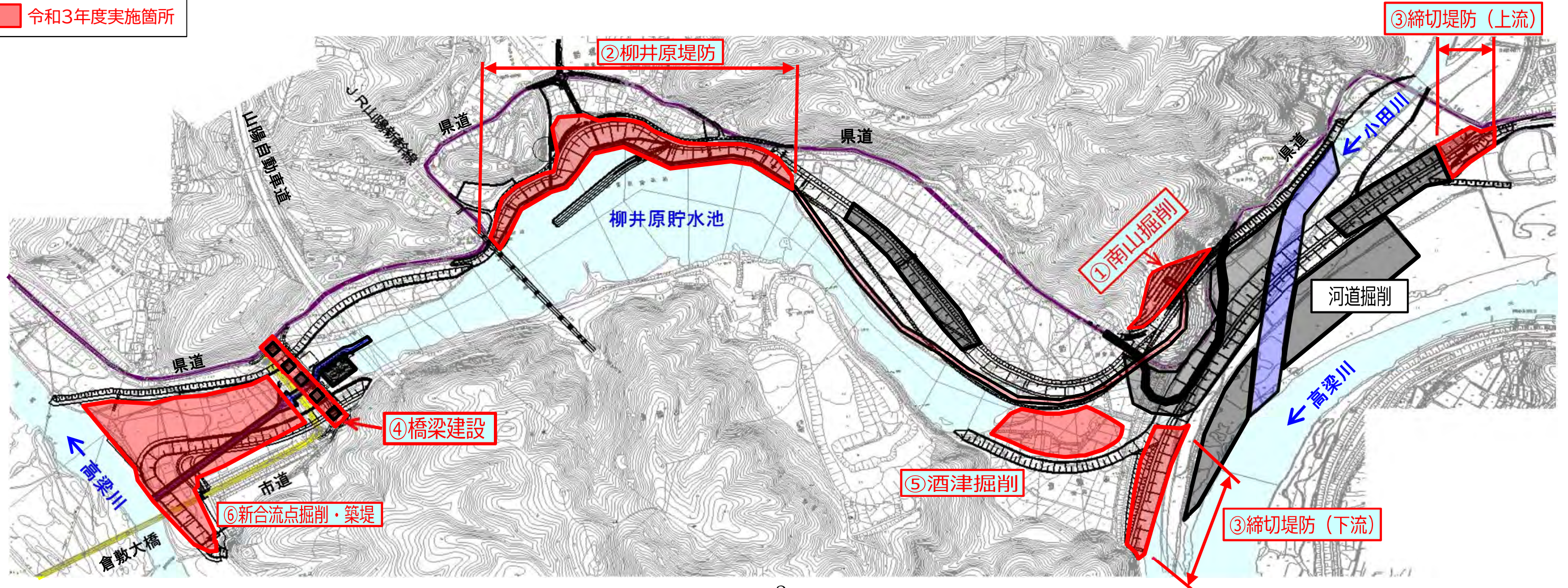
小田川合流点付替え事業

- 小田川合流点付替え事業は、平成26年度の事業着手から15年間での完成予定でしたが、平成30年7月の豪雨を受けて、集中投資と施工方法を見直すとともに、ICTを活用した施工を行うi-Constructionを推進し、5年前倒した令和5年度の完成を目指す
- 主な工事内容は、(1)南山等の掘削および掘削土砂を使用した築堤、貯水池内の埋土 (2) 下流の締切堤上の道路を橋梁に付替え (3) 上下流の締切堤を撤去、小田川を付替え



工事内容	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
仮設工事 (迂回路、濁水処理設備)	■						
南山掘削		■	■	■	■		
築堤 (柳井原地区、耕作地)			■	■	■		
橋梁架設			■	■	■		
締切堤防		■			■		
							合流点付替え (通水) →

令和3年度実施箇所



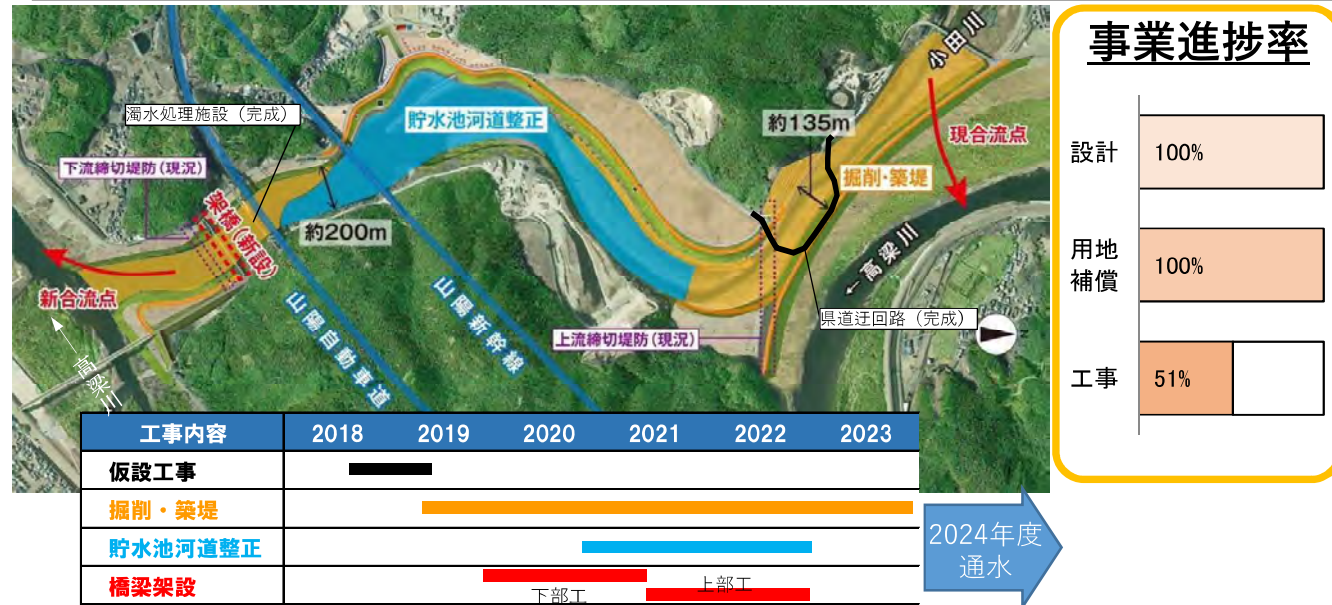
小田川合流点付替え事業進捗状況 ～真備緊急治水対策プロジェクト～



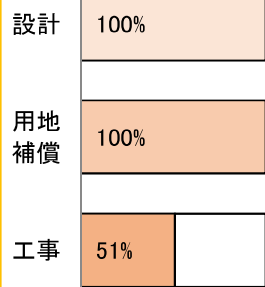
高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

2021年11月1日現在

小田川と高梁川の合流位置を約4.6km下流へ付替え、小田川沿川地域及び倉敷市街地における治水安全度の向上を図ります。



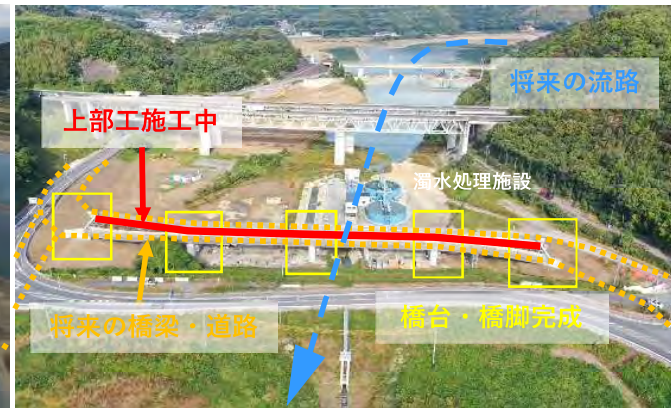
事業進捗率



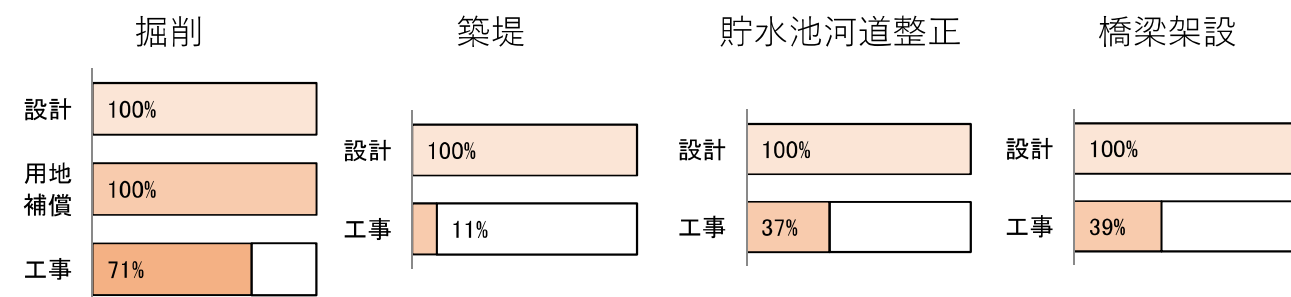
現在の工事状況と今後の予定

南山の掘削・締切堤の工事を行っています。

橋梁の上部工事を行っています。



個別事業進捗率



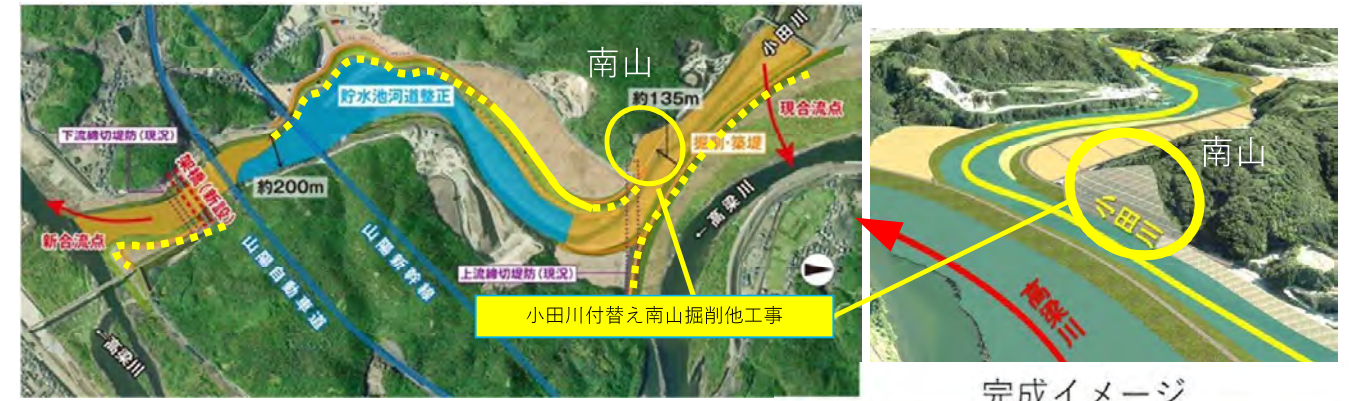
小田川合流点付替え事業進捗状況 ～真備緊急治水対策プロジェクト～



高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

2021年11月1日現在

南山付近の進捗状況



小田川付替え南山掘削他工事 【鹿島・大本・荒木特定建設工事共同企業体】



小田川合流点付替え事業進捗状況 ～真備緊急治水対策プロジェクト～



高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

2021年11月1日現在

柳井原貯水池の堤防の進捗状況



完成イメージ

小田川付替柳井原地区第1築堤工事【(株) 荒木組】

小田川付替柳井原地区第2築堤他工事【(株) 奥野組】



法面整形工



樋門・樋管本體工



小田川合流点付替え事業進捗状況 ～真備緊急治水対策プロジェクト～



高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所

2021年11月1日現在

新合流点付近の進捗状況



完成イメージ

小田川付替柳井原地区鋼橋上部工事【横河NSエンジニアリング】

小田川付替新合流点掘削他工事【三幸工務店】



ボルト締め



橋梁全景

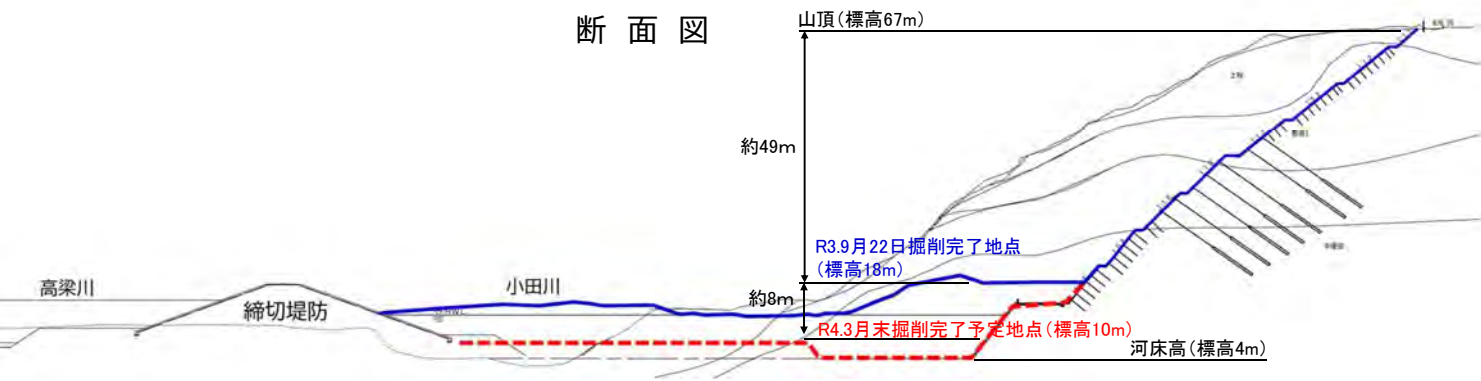


南山掘削

- 令和3年9月22日現在で山頂から約49mまで掘削が完了
- 令和3年も引き続き掘削を推進し、令和4年3月末時点でさらに約8m掘削を行う



断面図



南山掘削(実施状況)

着手前

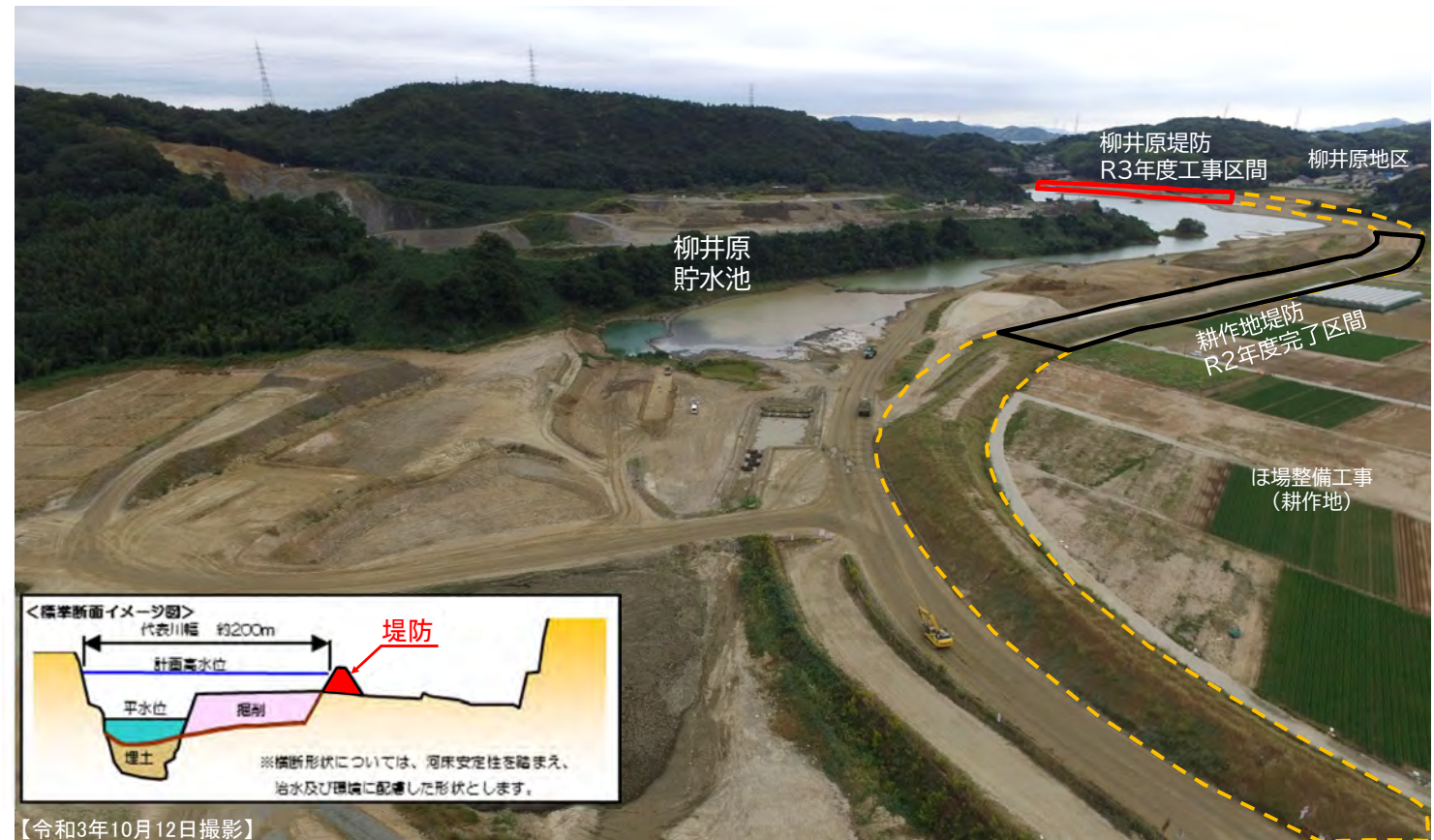


現在



耕作地堤防～柳井原堤防

- 南山掘削や柳井原貯水池掘削で発生した土砂や岩砕を有効活用して堤防工事を順次実施



柳井原築堤(実施状況)

着手前



現在



締切堤防・酒津掘削(河道掘削)

- 高梁川と小田川を分離するため、現合流点において締切堤防工事を実施
- 酒津地区において、河道掘削を実施



橋梁建設

R2年度までに橋台橋脚は完成。R3年9月16日に橋桁設置完了。
R4年度に道路を切り替え予定

工事内容	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)
橋脚	■	■	■		
橋台		■	■		
上部		■ 製作	■ 架設		
取付道路				■ 開通	

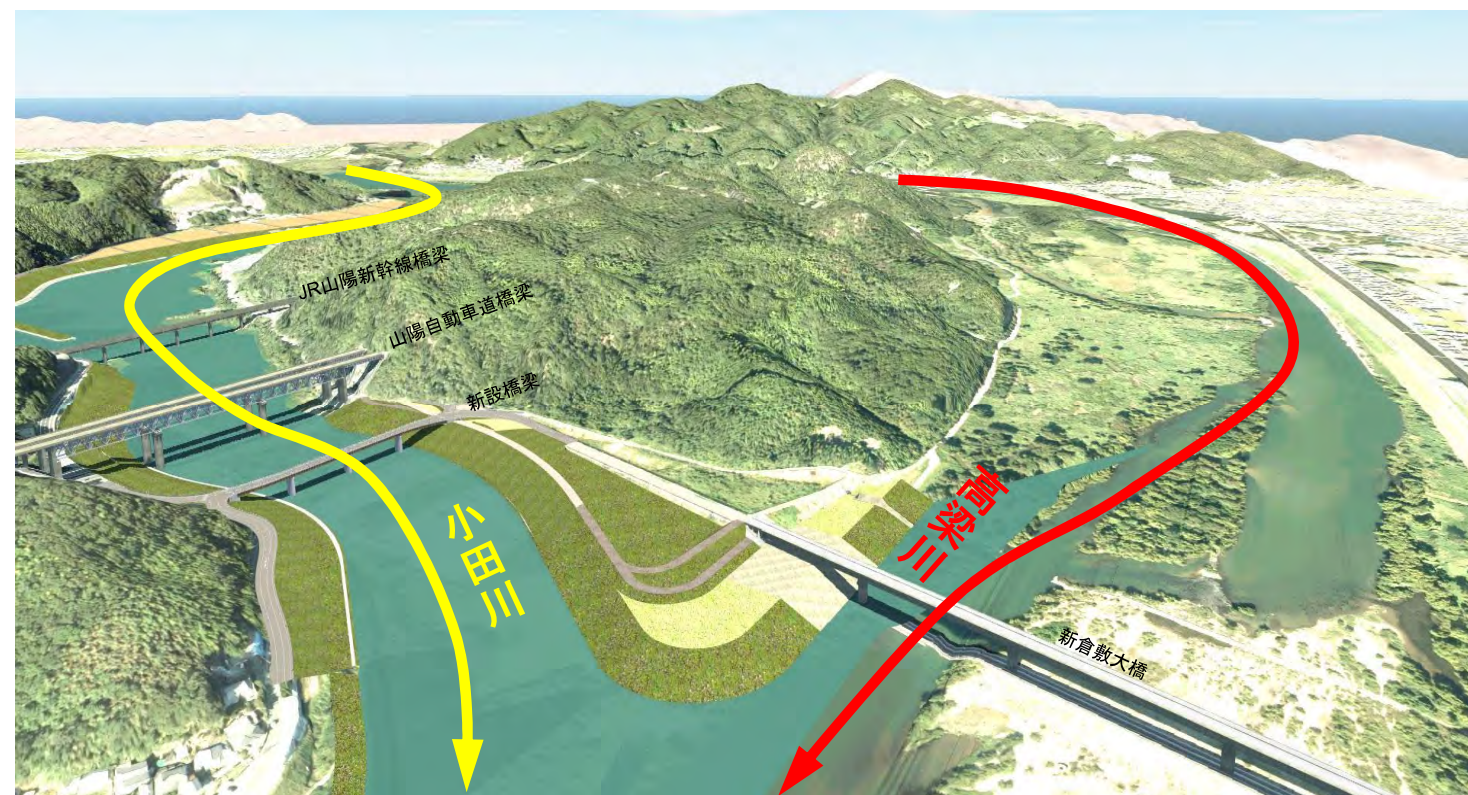


新合流点掘削(河道掘削)・築堤

- 新合流点において、河道掘削と築堤を実施

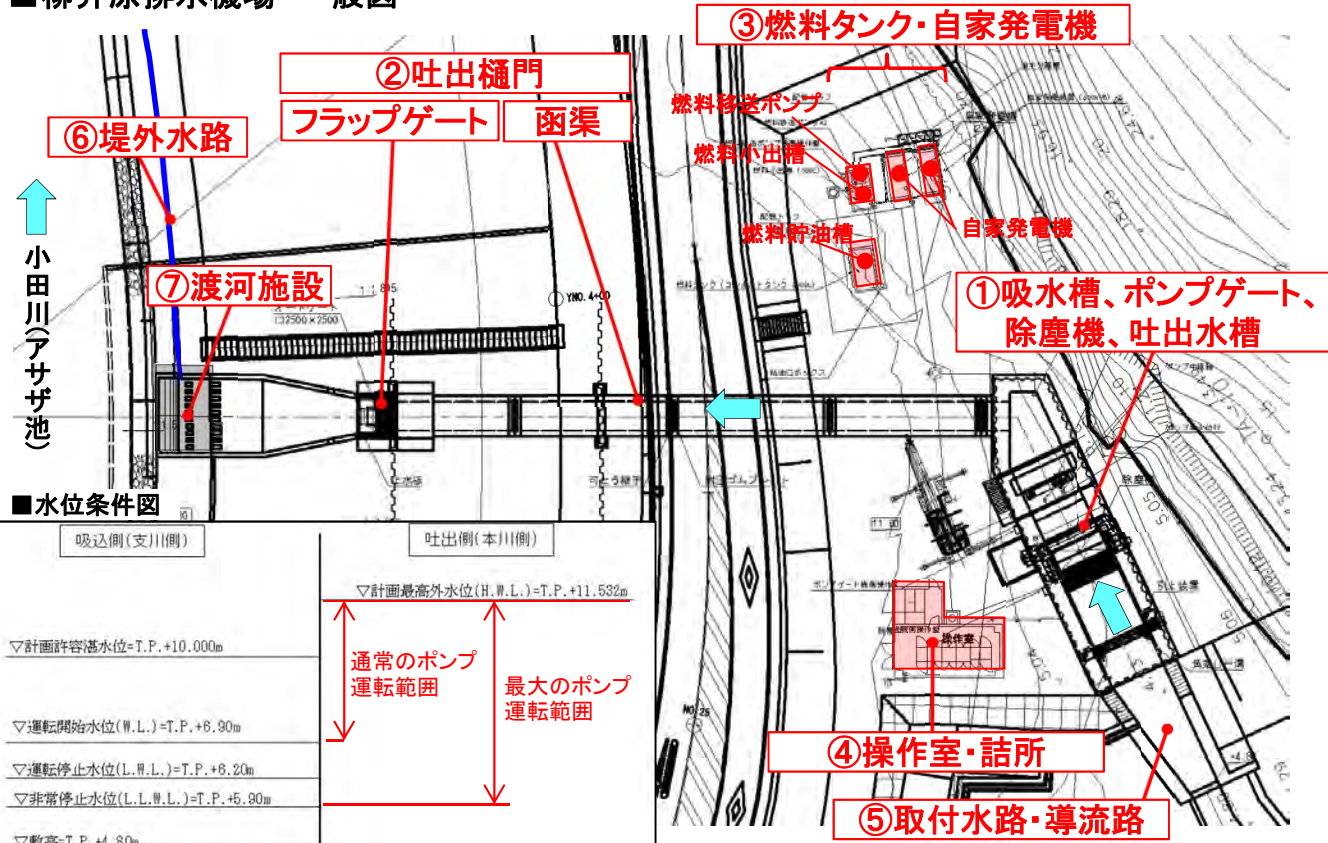


小田川合流点付替え工事 完成イメージ(下流側)

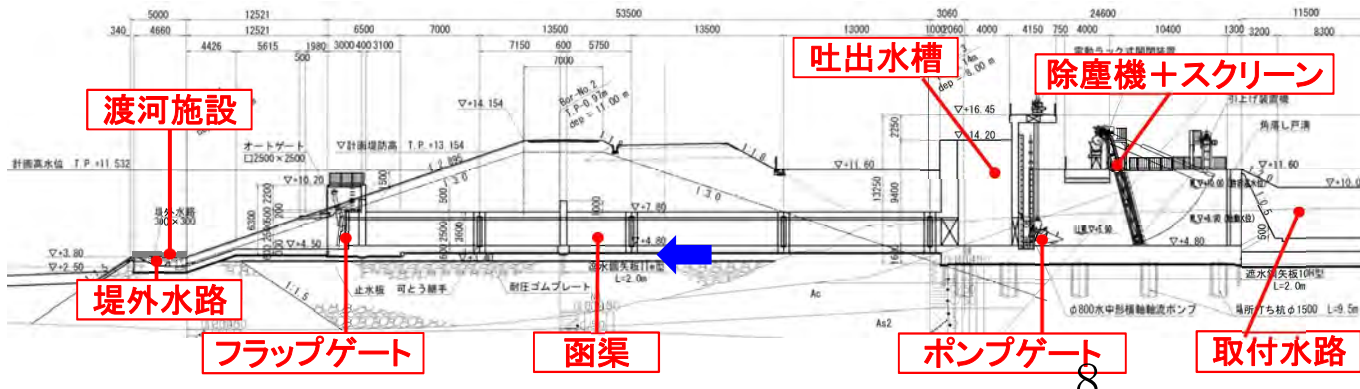
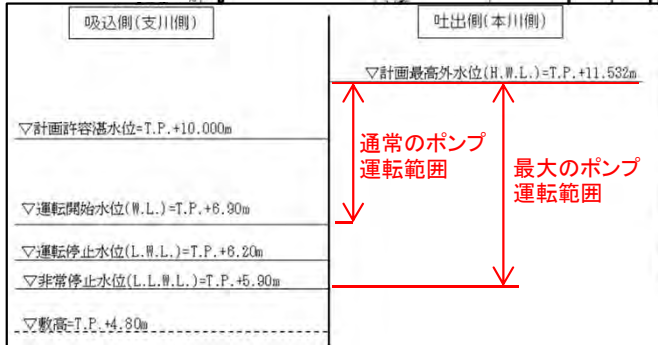


柳井原排水機場の概要(施設配置図)

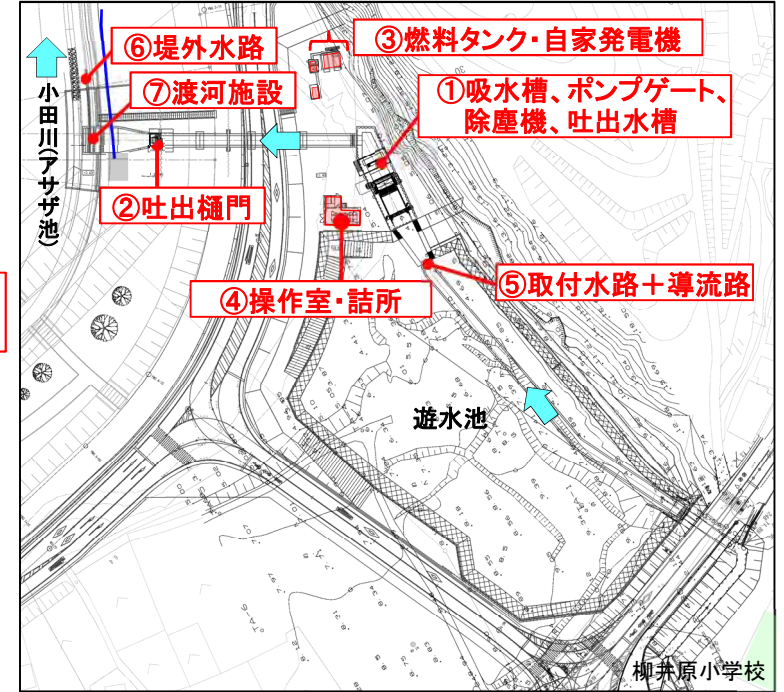
■柳井原排水機場 一般図



■水位条件図



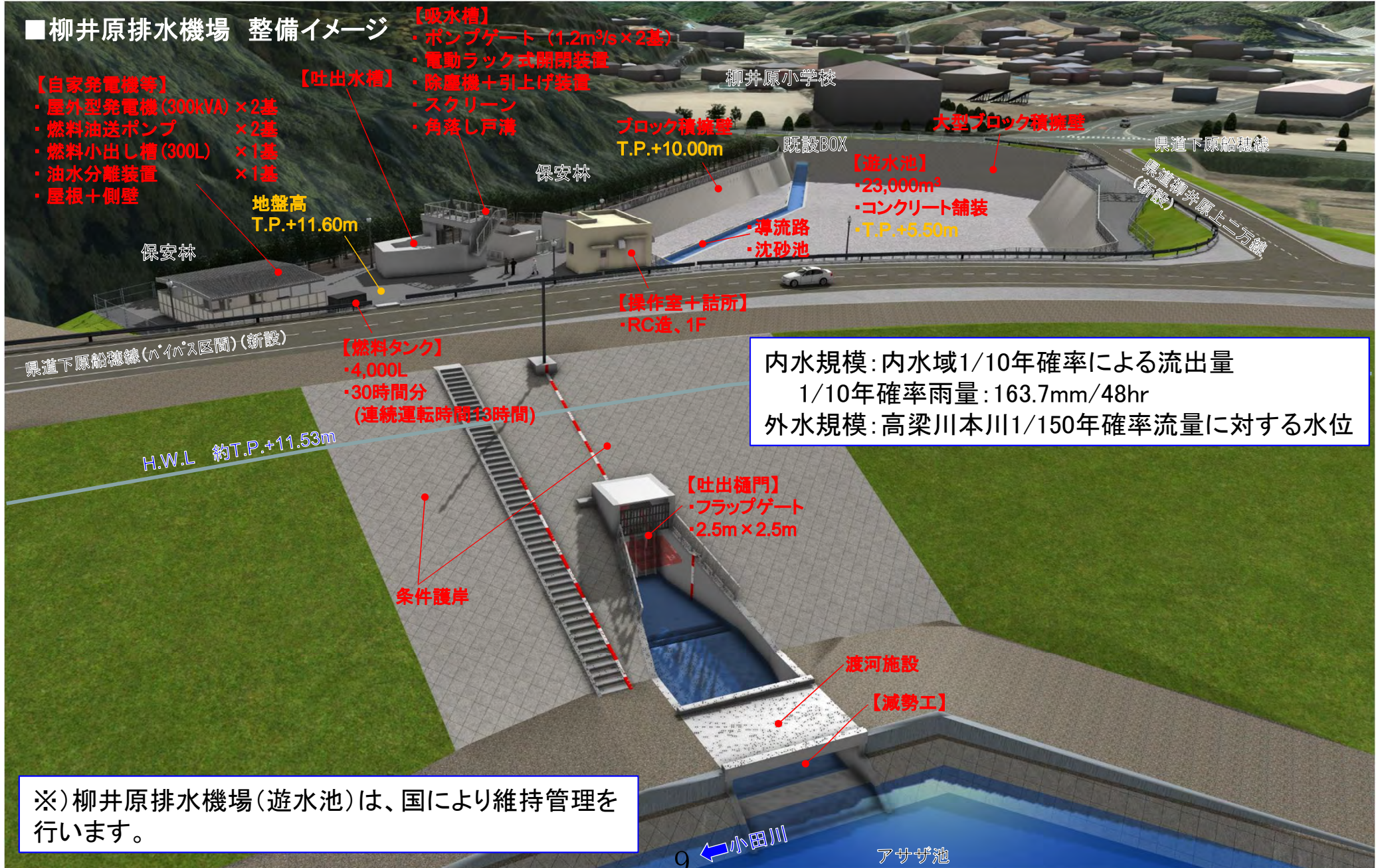
■柳井原排水機場 全体図



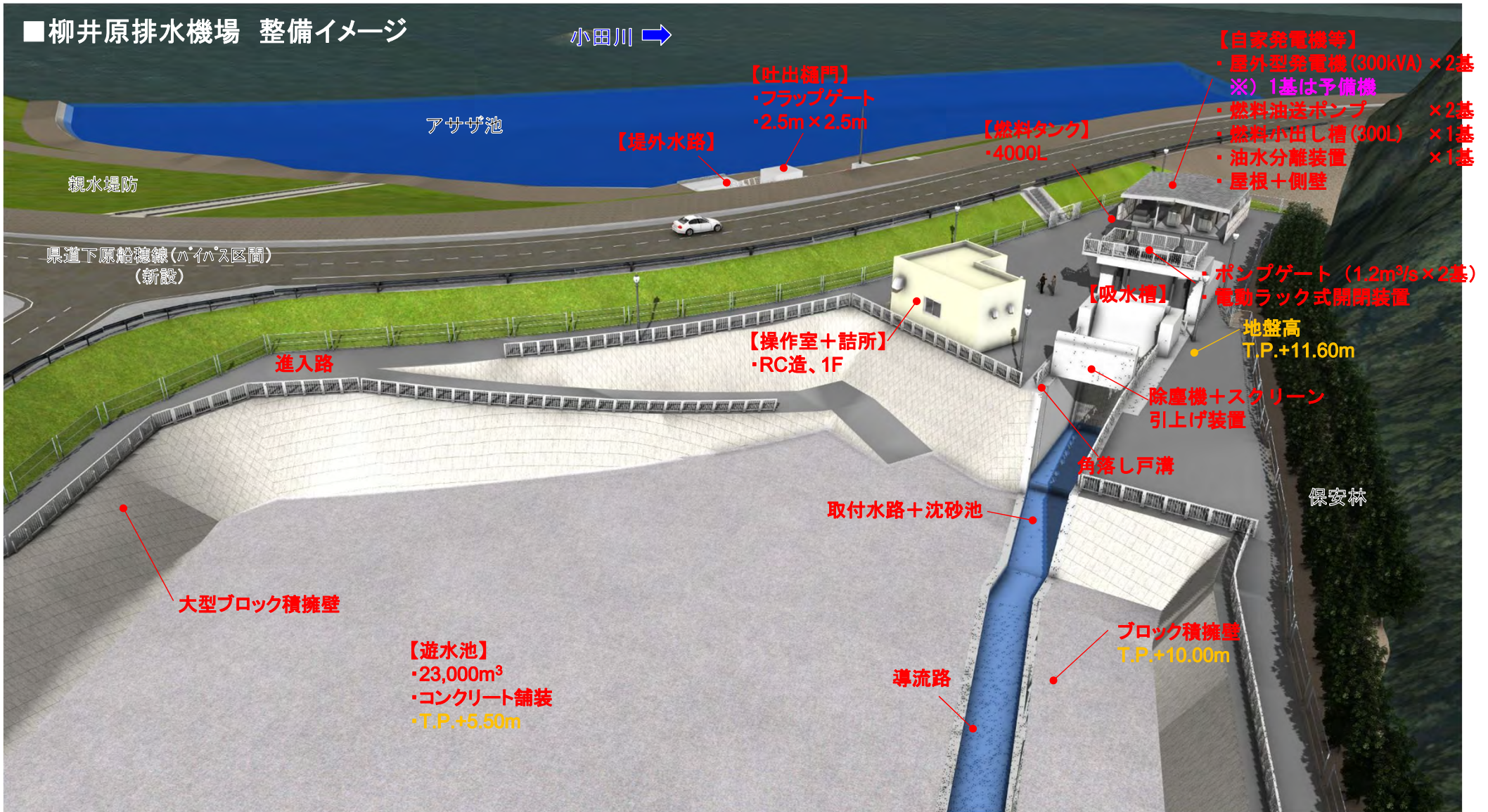
■ポンプゲート・遊水池の仕様

水力部		ゲート部	
項目	仕様	項目	仕様
形式	横軸水中軸流ポンプ	形式	ステンレス製ローラーゲート
口径	φ800mm	呑口寸法	W 4.8m × H 2.5m
吐出量	1.2m ³ /s/台	設計水位	外水位 T.P.+11.532m
全揚程	4.3m(計画) 6.0m(最大)		内水の T.P.+10.000m
電動機	110kw	ゲート敷高	T.P.+4.800m
台数	2台	開閉器形式	電動ラック式
—	—	門数	1門
遊水池			
設計水位	T.P.+10.0m(許容湛水位)		
最低池底高	T.P.+5.50m		
計画貯水容量	23,000m ³		
池底構造	コンクリート張		

柳井原排水機場の整備イメージ (1/2)

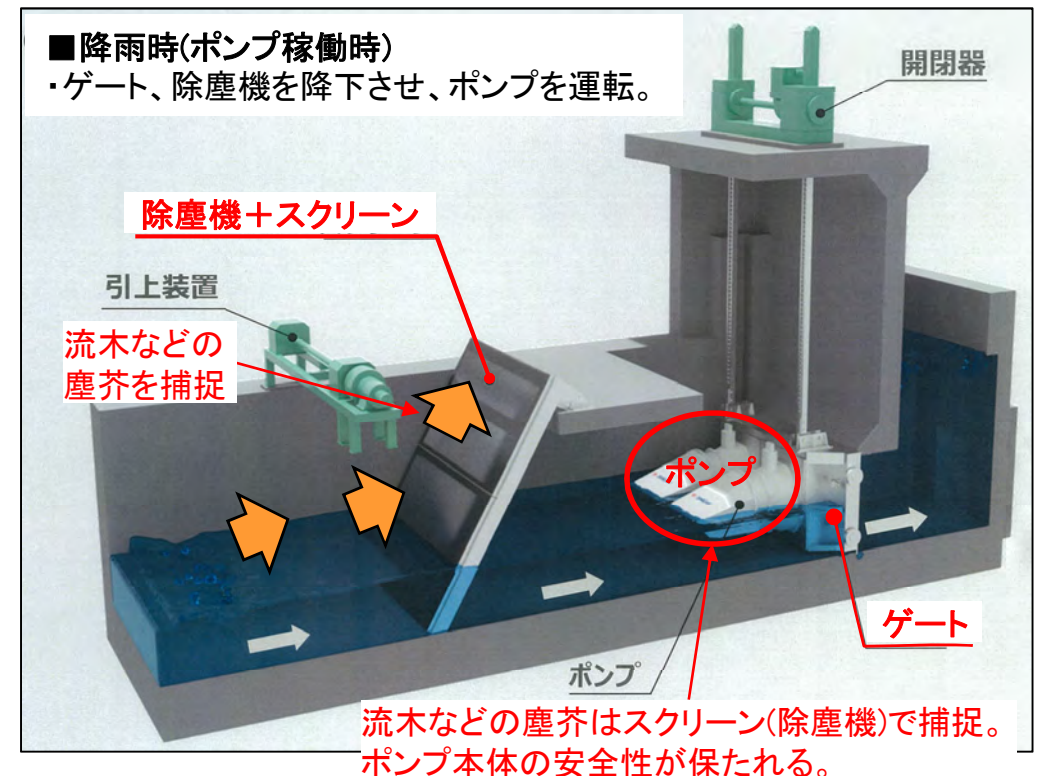
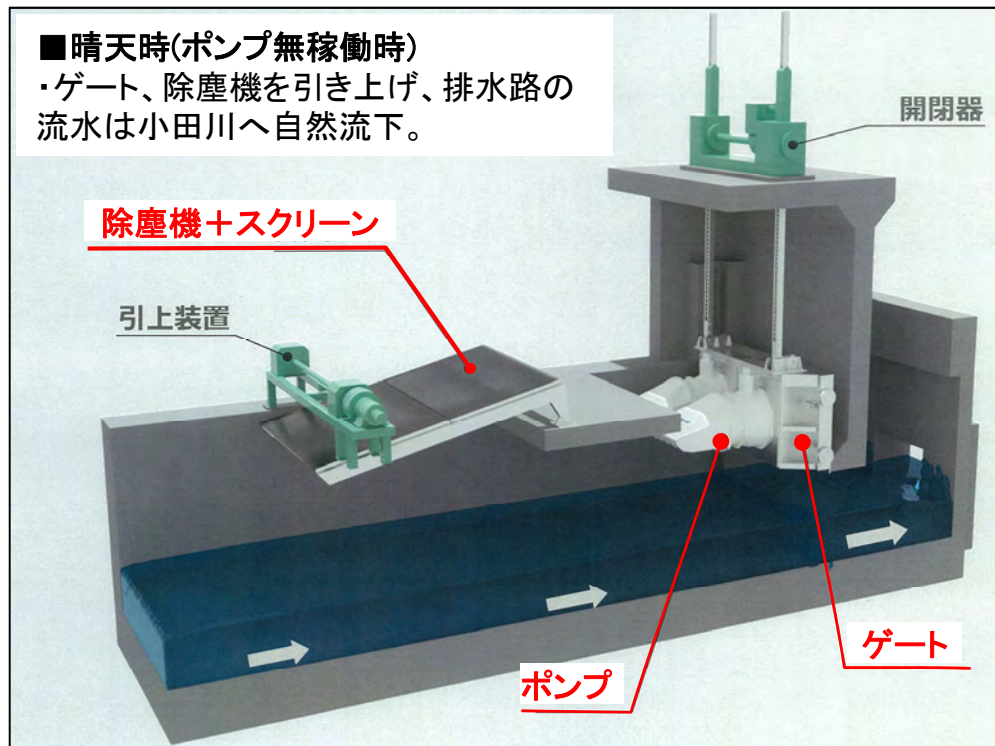
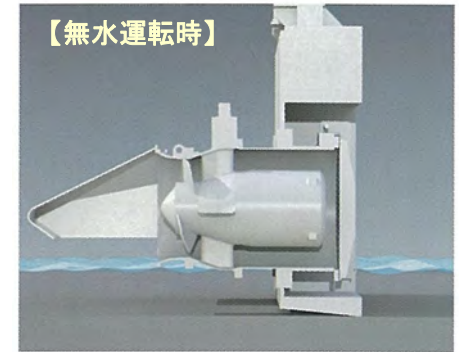


柳井原排水機場の整備イメージ (2/2)



柳井原排水機場の概要(ポンプゲート)

- 当該施設においては、**経済性**や**維持管理面**で最も優れている**ポンプゲート**を採用する。
- 当該箇所は、平常時の流入量が少ないため、**無水状態でも運転可能(最大2時間程度は運転可能)**な**ポンプ**を採用する。
- 小田川の水が遊水池内に逆流しないよう**吐出部とポンプゲートにフラップゲート**を設置する。
- 吸水側(流入側)に**除塵機**を設置し、流木等の浮遊物、塵芥はポンプゲート到達前に捕捉、除去。
- フラップゲートは、排水時以外は閉まっているため、**小田川からの流木や塵芥は侵入できない**。
また、函渠等によりポンプゲートからフラップゲートまで約60m離れており、ポンプゲートに影響する可能性は小さい。



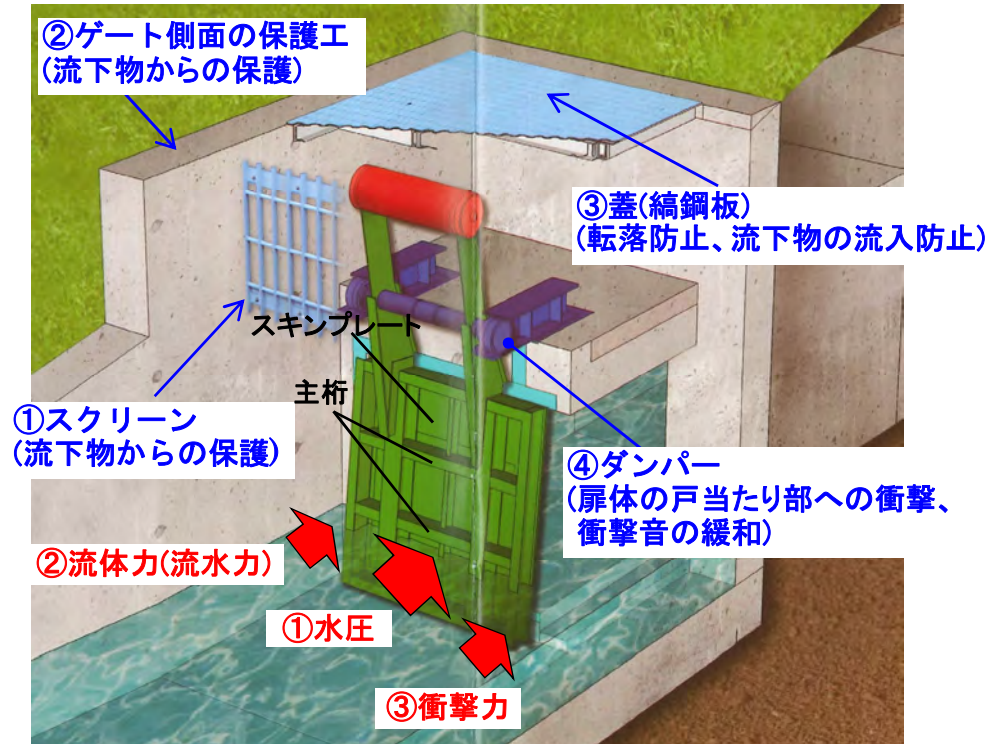
※本図はメーカー資料より抜粋。

柳井原排水機場の概要(フラップゲート)

部材設計、構造対応それぞれの観点から、ゲートの安全性を確保する。

- ①部材設計の配慮事項→不測の外力も荷重条件として設定し、部材の規格を設定。
(ステンレス製、主桁-250mm×90mm×9mm、スキンプレート-厚さ12mm)
- ②構造の配慮事項→スクリーン、側面の保護工、転落防止柵、開口部の蓋(縞鋼板)、ダンパーなどの設置により、不測の外力がゲートに加わる可能性を低減する。

■ゲートの安全性確保のための配慮事項

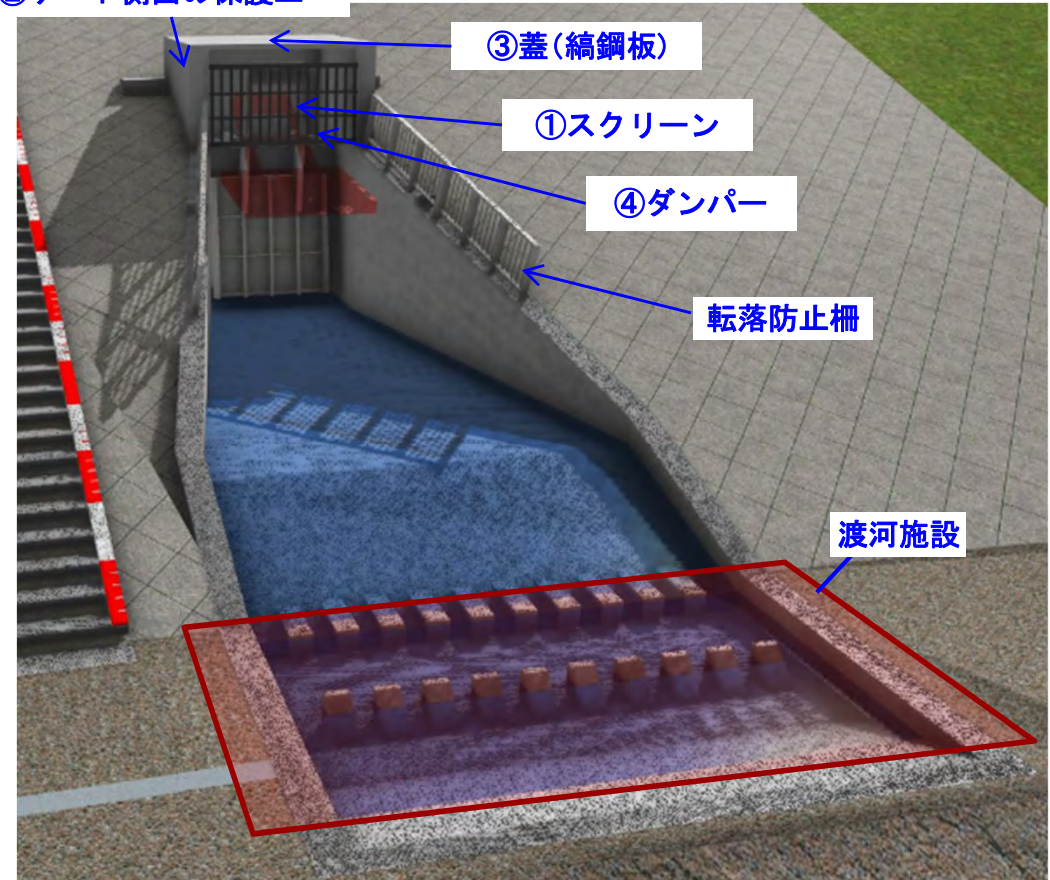


赤字 : 部材設計の配慮事項
青字 : 構造上の配慮事項

※本図は、メーカーパンフレット掲載の図に加筆したものである。

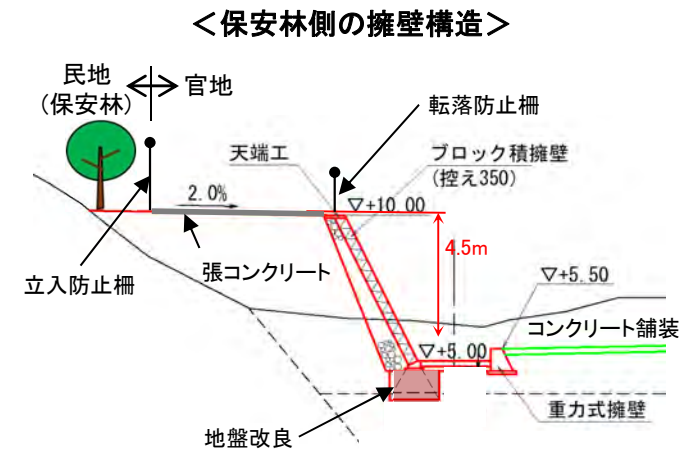
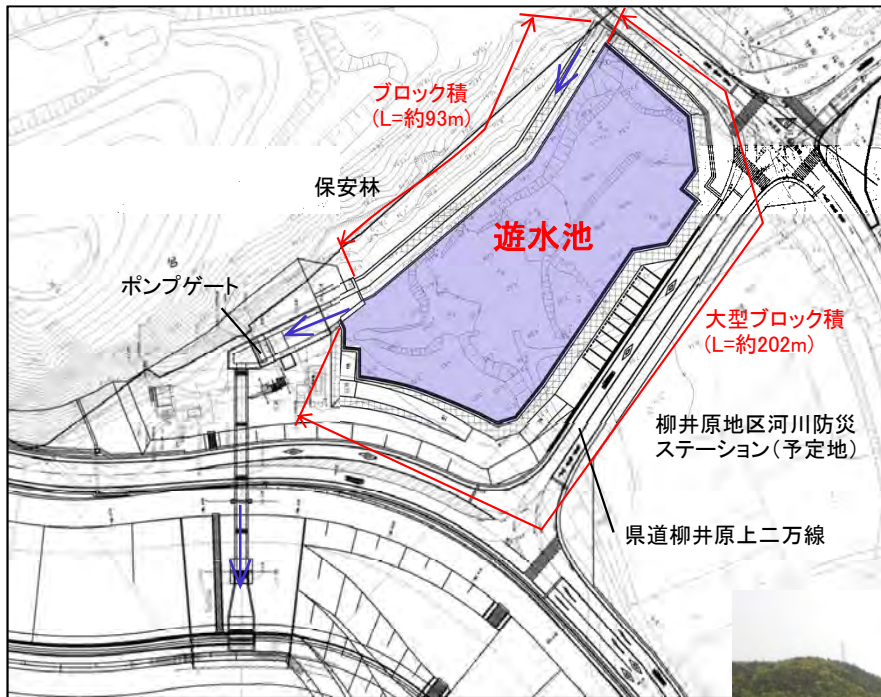
■柳井原排水機場における構造上の配慮事項への対応

②ゲート側面の保護工

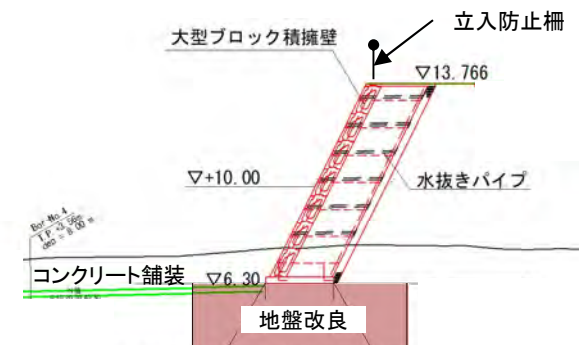


柳井原排水機場の概要(遊水池)

- ポンプ設備と併せ遊水池を整備。ポンプとの併用により、流入量の変動に柔軟に対応。
- 遊水池容量: 約23,000m³(柳井原地区最低地盤高を遊水池水位とみなした場合の貯留容量)
- 遊水池の面積: 約6,000m²(柳井原小学校のグラウンドと同規模)、水深: 約4.5m(最低地盤高ー遊水池底高)



＜県道柳井原上二万線側の擁壁構造＞



時間あたり40mmの雨 → 1.5時間分の貯留。
時間あたり20mmの雨 → 3.0時間分の貯留。

柳井原排水機場の概要(付属施設)

- 関係者以外の施設内への立ち入りを防ぐため、敷地周囲に立入防止柵（門扉含む）を設置。
- 夜間作業に必要な照明（6基）を設置。（LED照明）※）夜間作業時以外は点灯しません。
- 川表、吸水槽周辺及び遊水池の状況を把握するため、CCTVカメラ（3台）を設置。

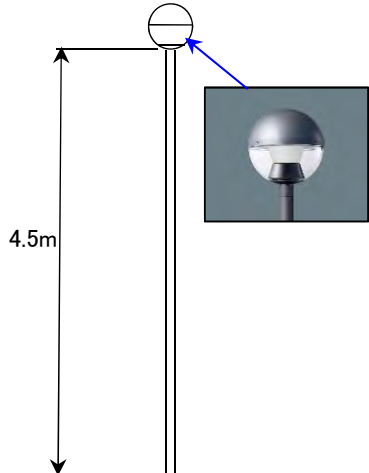
■立入防止柵のイメージ(遊水池を含む敷地全周)



■門扉のイメージ(2箇所)



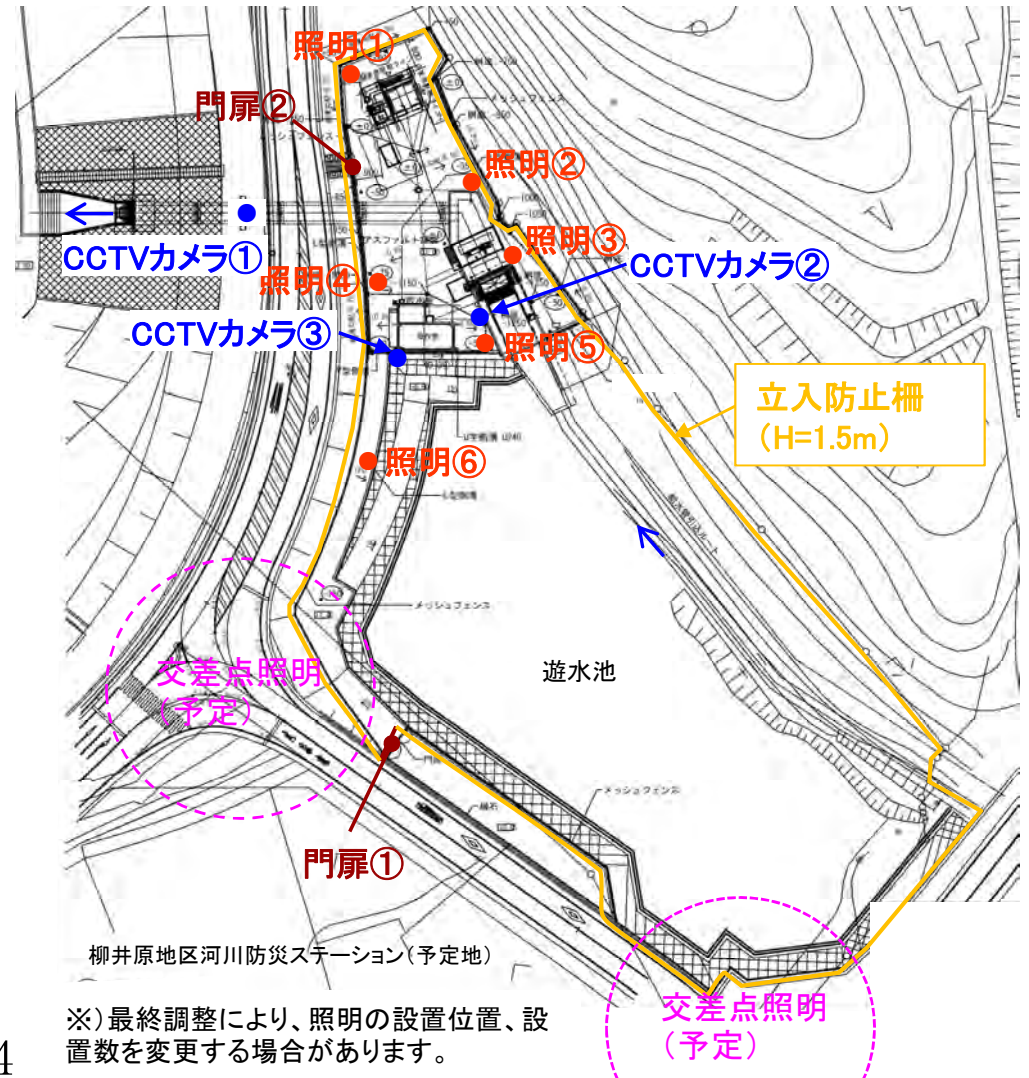
■照明のイメージ(LED灯、6基)



■CCTVカメラのイメージ(3箇所)



※) 資材調達環境により、上記のイメージと形状が異なる場合があります。



※) 最終調整により、照明の設置位置、設置数を変更する場合があります。

河川防災ステーションの整備イメージ

- 柳井原地区河川防災ステーションは、既存防災関連施設等と連携を図りつつ、大幅に不足している水防資材及び復旧資材を広域的に補う備蓄基地として、また、大規模な水害等による高梁川流域の被害を最小限に抑えるため、河川管理保全活動及び迅速な緊急復旧活動を実施する拠点となる施設です。
また、平常時は公園のほか、コミュニティハウス(水防センター)として活用、水防災意識に着目したパネルを展示し防災学習の場として活用するなど、平常時の利活用を推進することで、地域の賑わいづくり及び防災に対する意識向上を図ります。
- 河川防災ステーションは、小田川合流点の付替え完成に合わせ、R5年度末までに市が公園及びコミュニティハウスを完成させた後、国がR7年度末までに水防資材等の整備を行い、事業の完成をめざします。(R3. 3に事業承認済み)



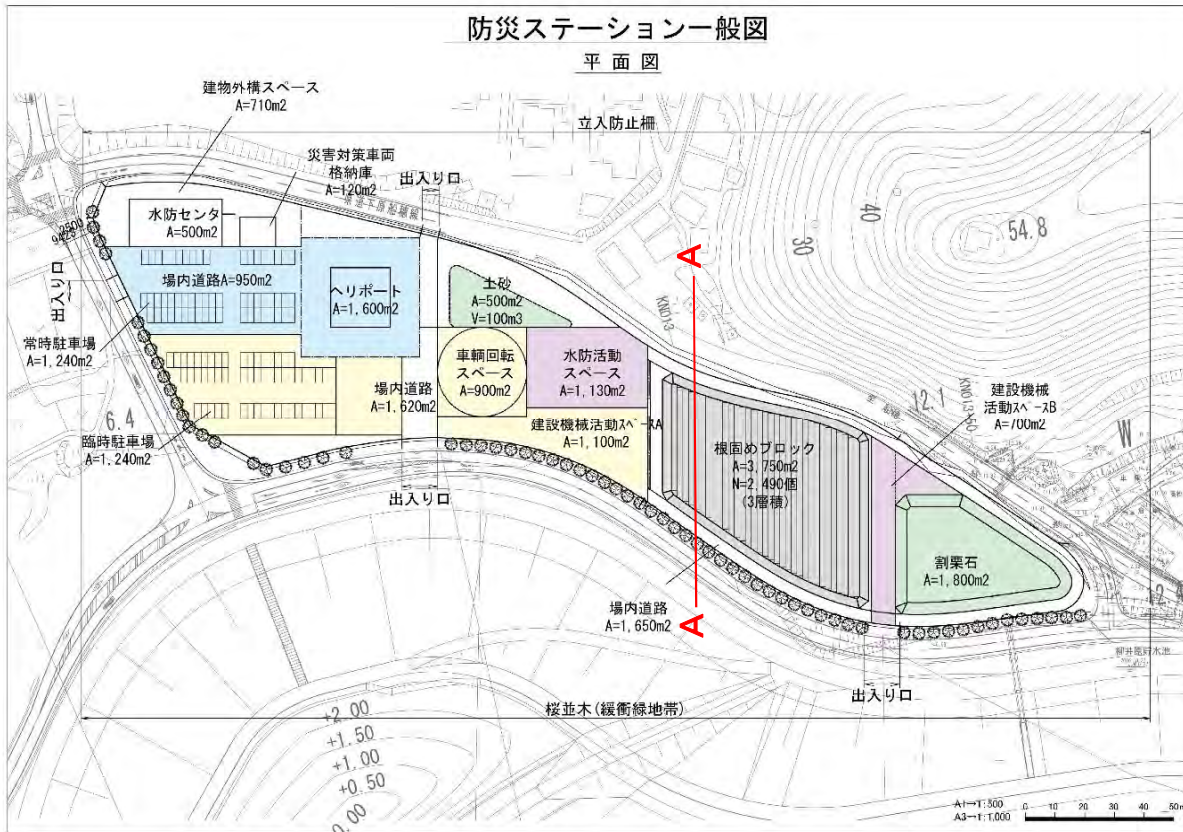
平常時の利用イメージ



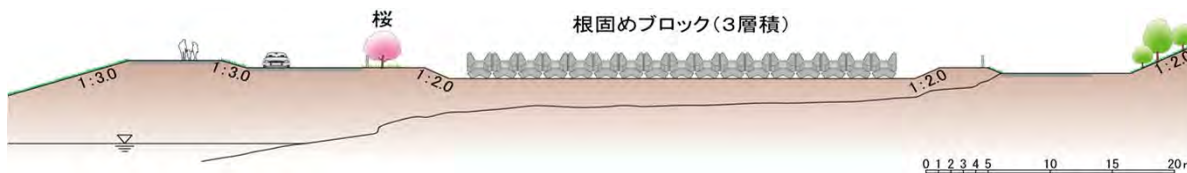
緊急復旧活動時のイメージ

河川防災ステーションの配置計画(緊急時)

- 高梁川流域(直轄管理区間)において、小田川・高梁川の全測量横断毎に決壊した場合の必要資材量を算出し、各資材の最大量を**既存の備蓄資材と河川防災ステーションで確保**します。
- なお、水防活動スペースと建設機械活動スペースが重複しないよう導線に配慮し、配置や出入り口の計画を行っています。



河川防災ステーション断面図(A-A断面)

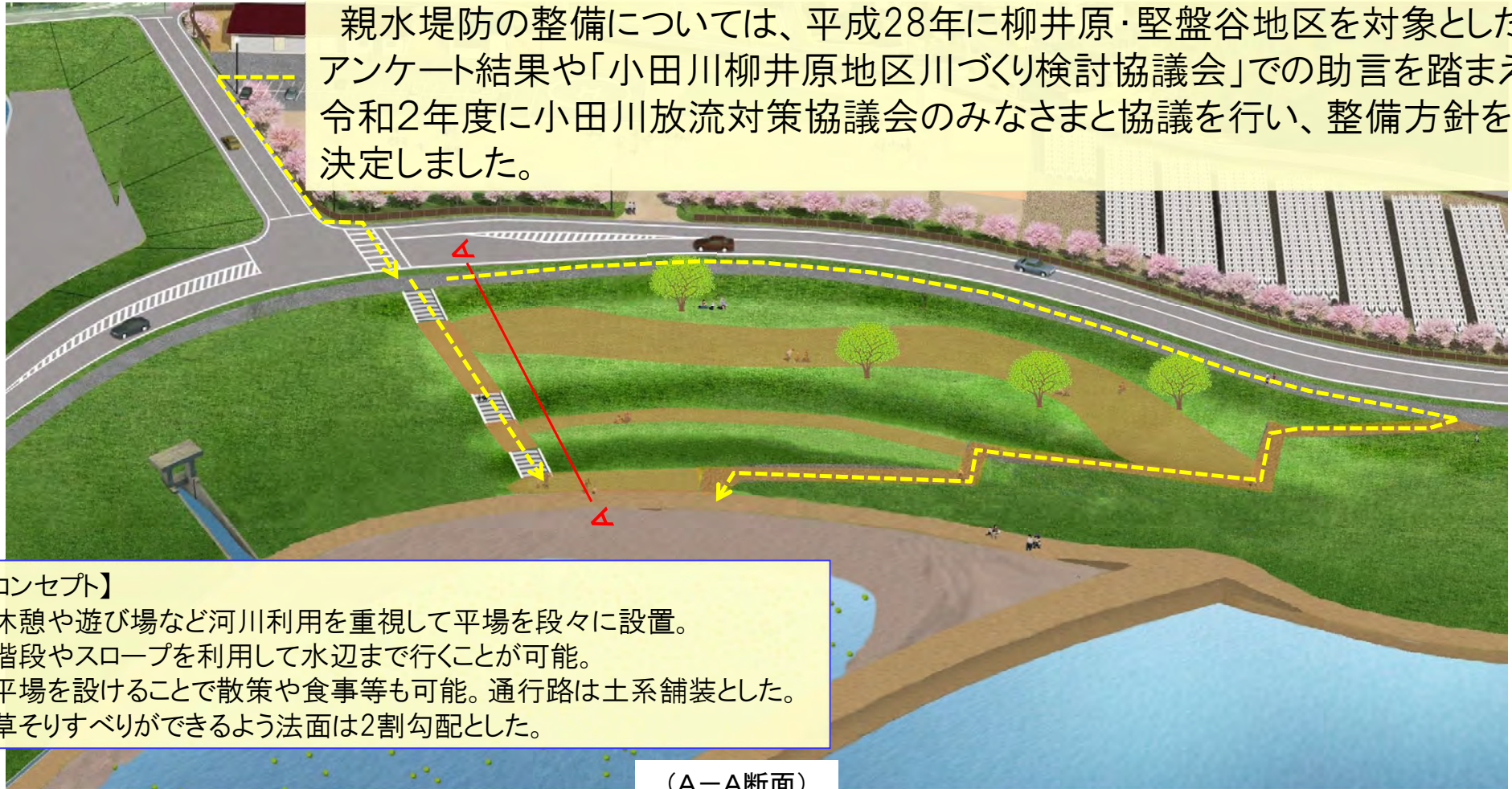


河川防災ステーションの概要(施設の内容、機能等)

種別	施設	規模の考え方	面積㎡	事業分担
備蓄ヤード	土砂	備蓄土量 100m ³ (水防訓練用)	500	国
	ブロック	根詰めブロック 2,490個 (最大3層積・備蓄高約3m)	3,750	国
	割栗石	割栗石 1,800㎡ (6,260m ³ 、積高2m+地下埋設2m)	1,800	国
	場内通路等	緊急車両等の動線確保	1,990	国
計		8,040		
ヘリポート 常時駐車場 (As舗装)	ヘリポート	緊急輸送用ヘリポートとして、中国地方整備局に配置予定のヘリコプターのほか、他地整からの支援も想定し、最も規模の大きい機体の離着陸地帯(1,600m ²)、接地帯(400m ² :As舗装)を確保	1,600	国
	常時駐車場	倉敷方面隊の団員449名の半数225名が、小型車により集合するものとし、その駐車に必要な面積を確保する。駐車場(225人/2×21.9㎡≒2,480㎡:113台)の内、約5割(57台分)は、常時駐車場として確保	1,240	国
	場内通路等	緊急車両等の動線確保	950	国
計		3,790		
作業ヤードA 臨時駐車場	建設機械活動スペースA	根詰めブロックの運搬に必要な活動スペースを確保	1,100	国
	車両回転スペース	車両回転に必要なスペースは、重機運搬、緊急復旧資材の運搬に使用されるセミトレーラーを対象とした。	900	国
	水防活動スペース	水防団員は倉敷方面隊の団員449名の半数225名が、活動するものと想定し、各人のスペースは5㎡	1,130	国
	臨時駐車場	駐車場(2,480㎡:113台)の内、約5割(56台分)は、臨時駐車場として確保	1,240	国
場内通路等	緊急車両等の動線確保	1,620	国	
計		5,990		
作業ヤードB	建設機械活動スペースB	割栗石、根詰めブロックの運搬に必要な活動スペースを確保	700	国
計		700		
建築物	水防センター	指令室23名+機器、大会議室70名、水防団待機室50名他を想定。	420	市
	水防倉庫	水防資材、特殊資材・機器の備蓄	80	市
	災害対策車両格納庫	災害対策車両の格納	120	国
	建物外構スペース	水防センター及び災害対策車両格納庫の維持管理スペース(As舗装710㎡)	710	国・市
計		1,330		
その他	緩衝緑地等	外部空間との緩衝帯として緑地を確保(芝張、桜の植栽等)	2,150	市
	計		2,150	
合計			22,000	

親水堤防の整備イメージ

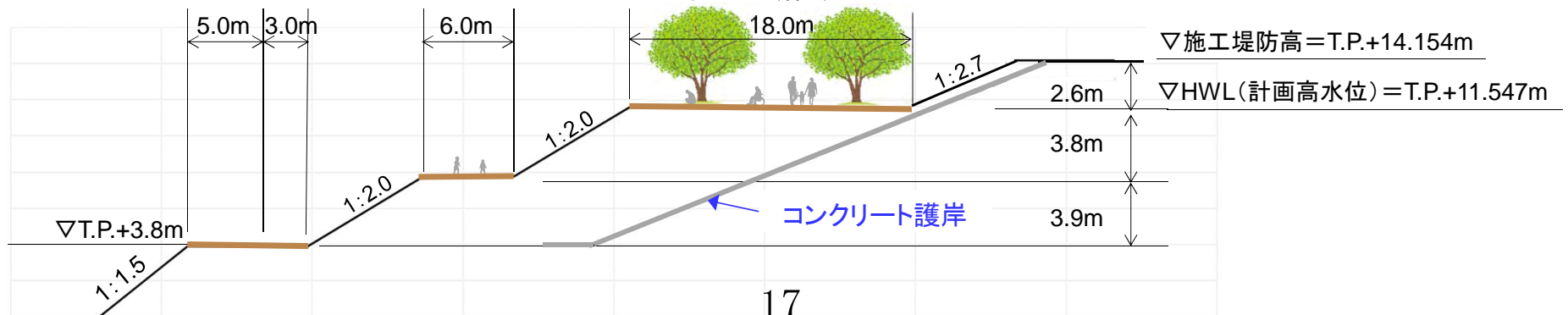
親水堤防の整備については、平成28年に柳井原・堅盤谷地区を対象としたアンケート結果や「小田川柳井原地区川づくり検討協議会」での助言を踏まえ、令和2年度に小田川放流対策協議会のみなさまと協議を行い、整備方針を決定しました。



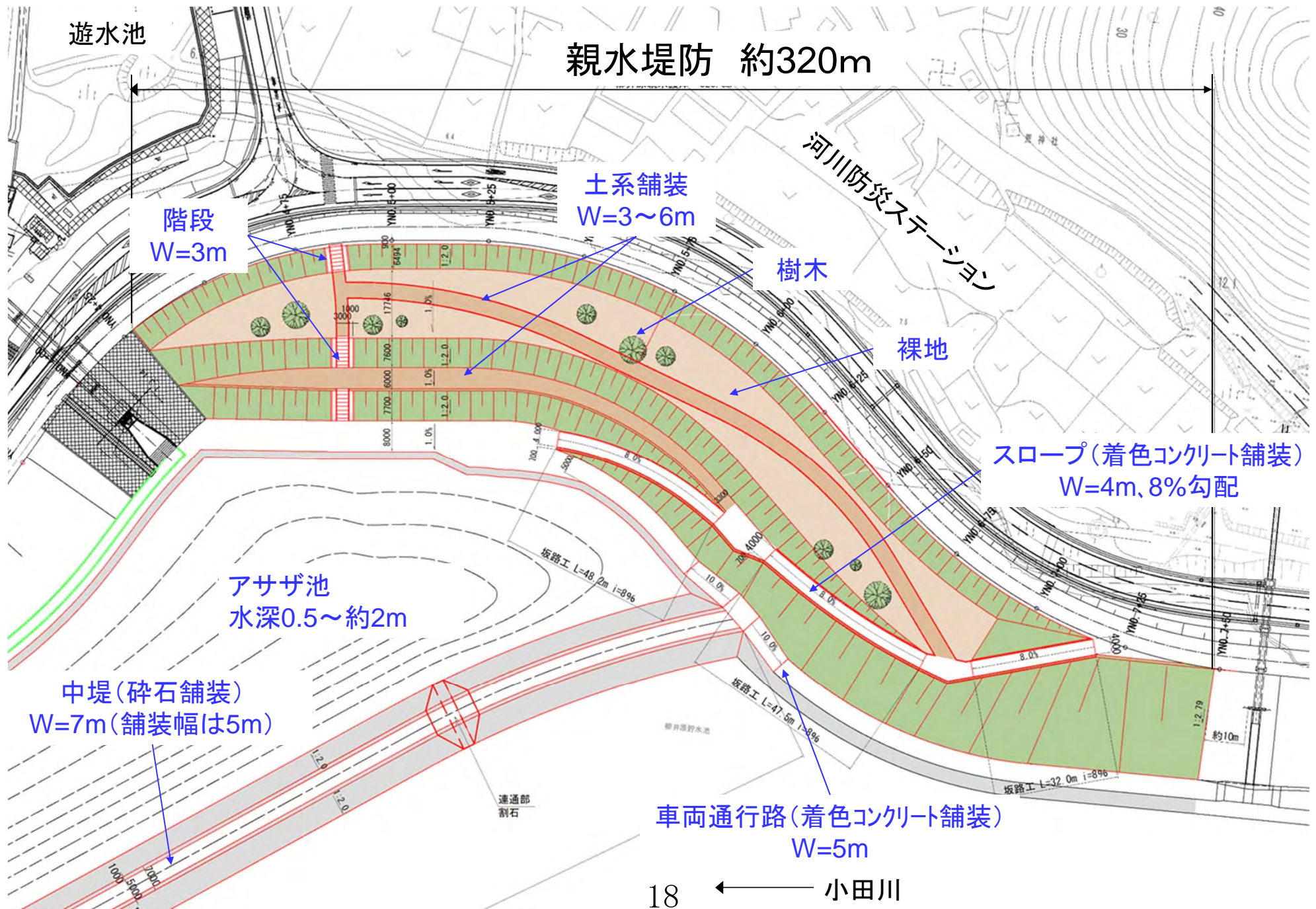
【コンセプト】

- ・休憩や遊び場など河川利用を重視して平場を段々に設置。
- ・階段やスロープを利用して水辺まで行くことが可能。
- ・平場を設けることで散策や食事等も可能。通行路は土系舗装とした。
- ・草そりすべりができるよう法面は2割勾配とした。

(A-A断面)



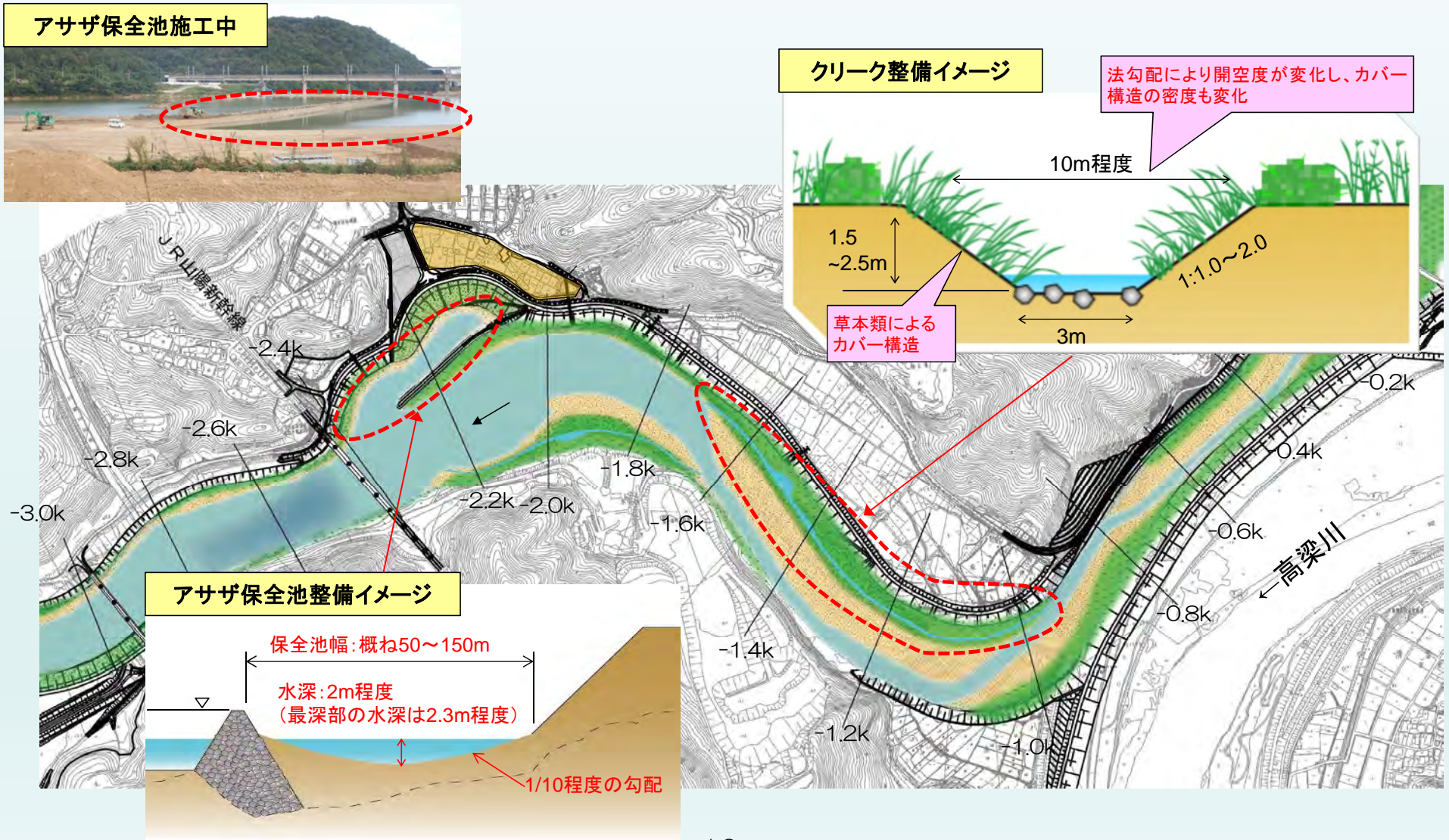
親水堤防の計画平面図



多様な動植物の生息環境の創出

参考：H30.2.5 第4回小田川柳井原地区川づくり検討協議会資料

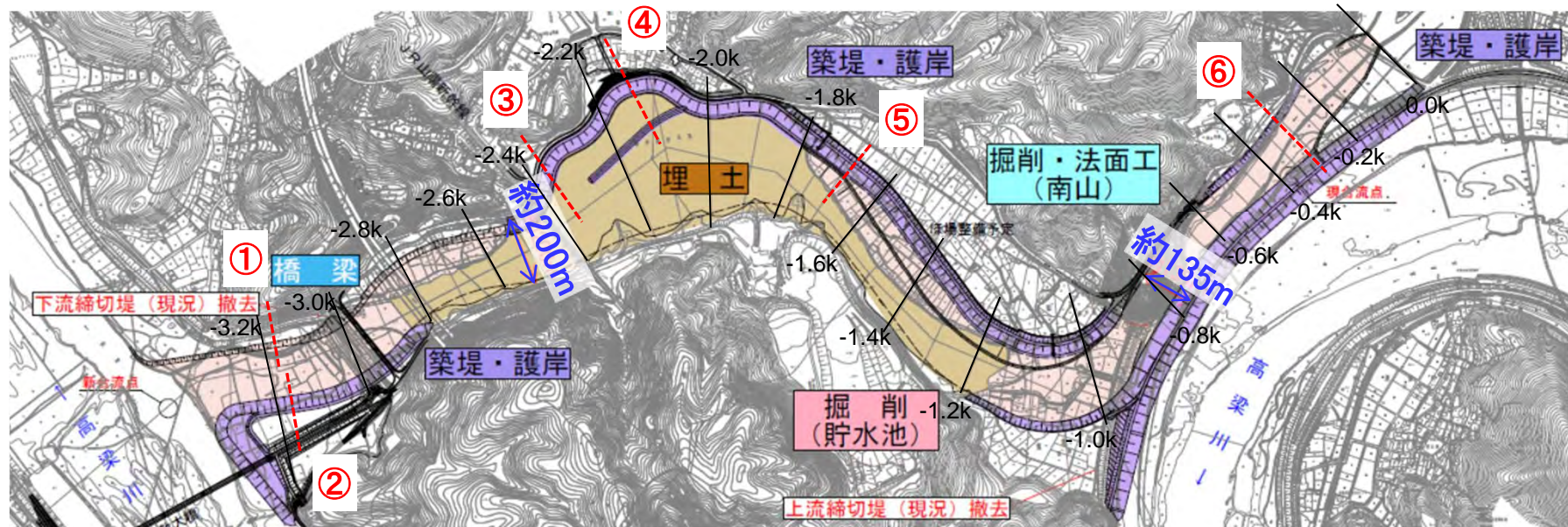
多様な動植物の生息環境の特性を踏まえ、付替え河道内にアサザ保全池(R3施工中)及びクリーク(R3設計予定)の整備など、生息環境を創出します。



小田川合流点付替え部 計画幅

河川の計画幅について

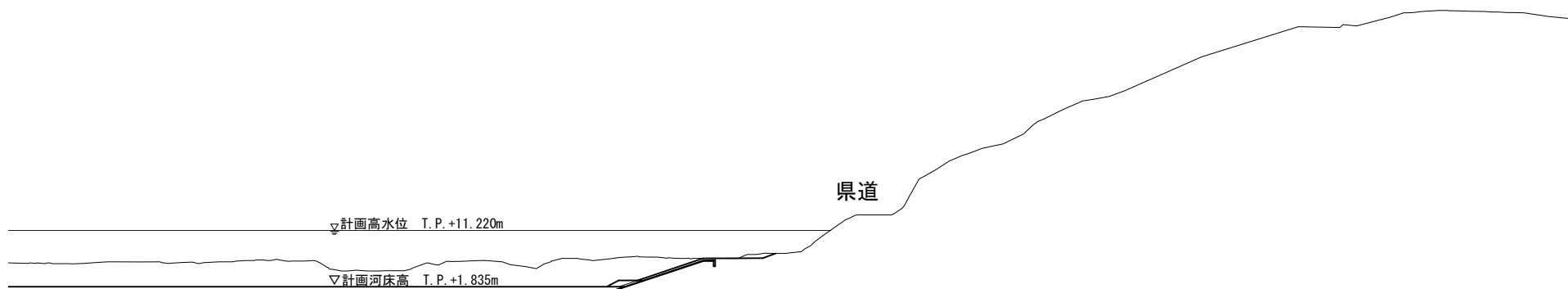
- 小田川付替え区間の標準的な川幅は、約200mで計画しています。
- 南山を掘削する部分の川幅は、約135mで計画しています。



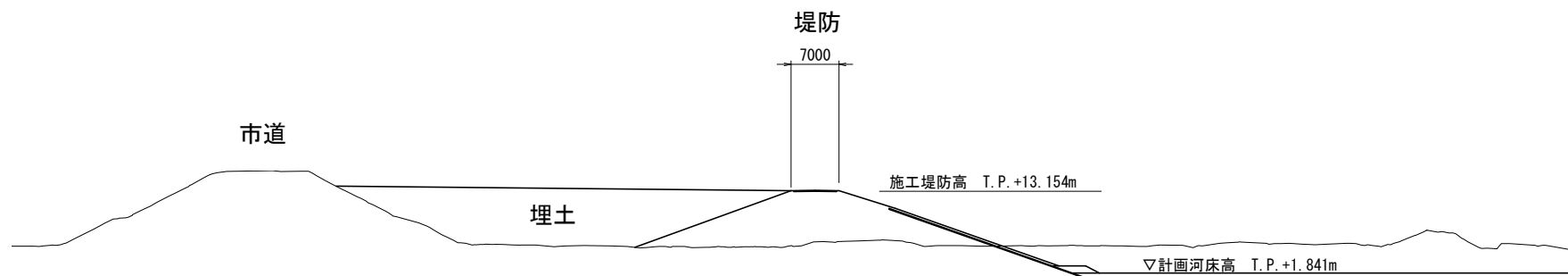
小田川合流点付替え部 標準横断面図

河川の標準横断面図

標準横断面図①(新合流点(右岸))

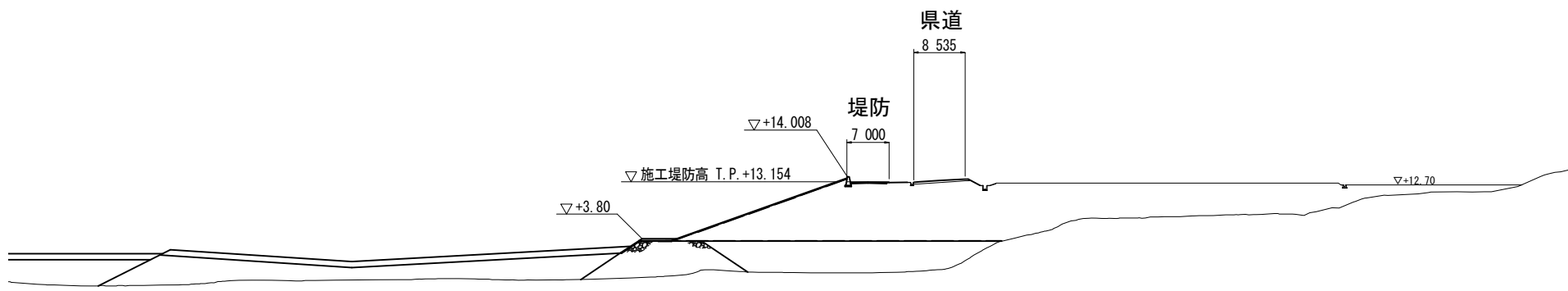


標準横断面図②(新合流点(左岸))

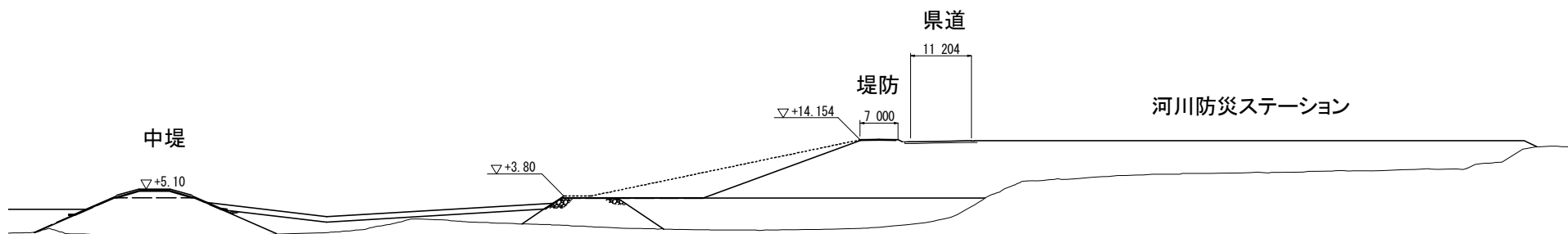


小田川合流点付替え部 標準横断面図

標準横断面図③(大谷地区付近)

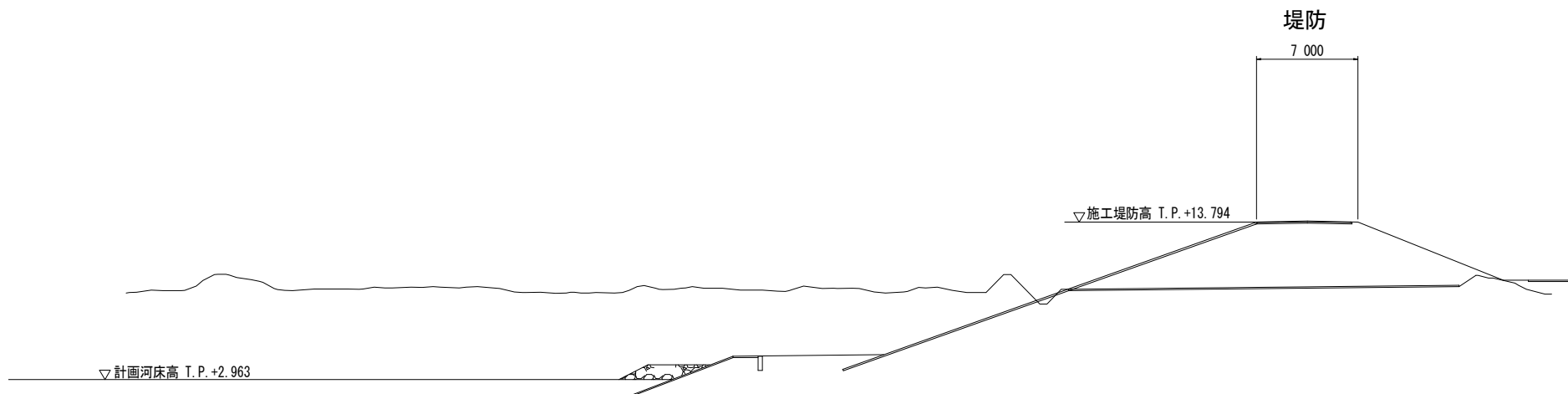


標準横断面図④(河川防災ステーション付近)

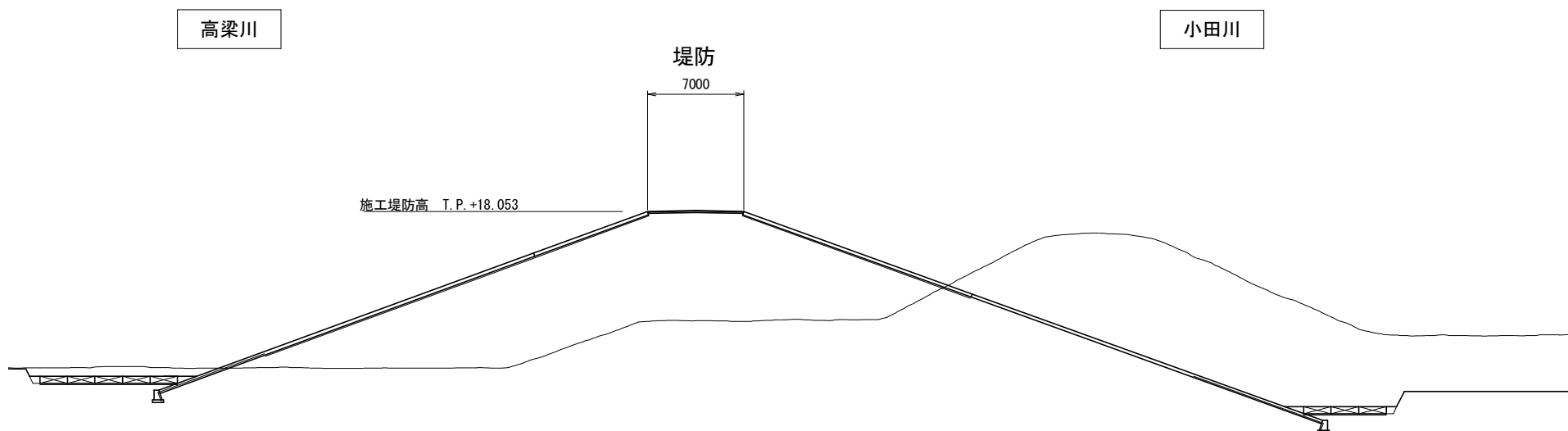


小田川合流点付替え部 標準横断面図

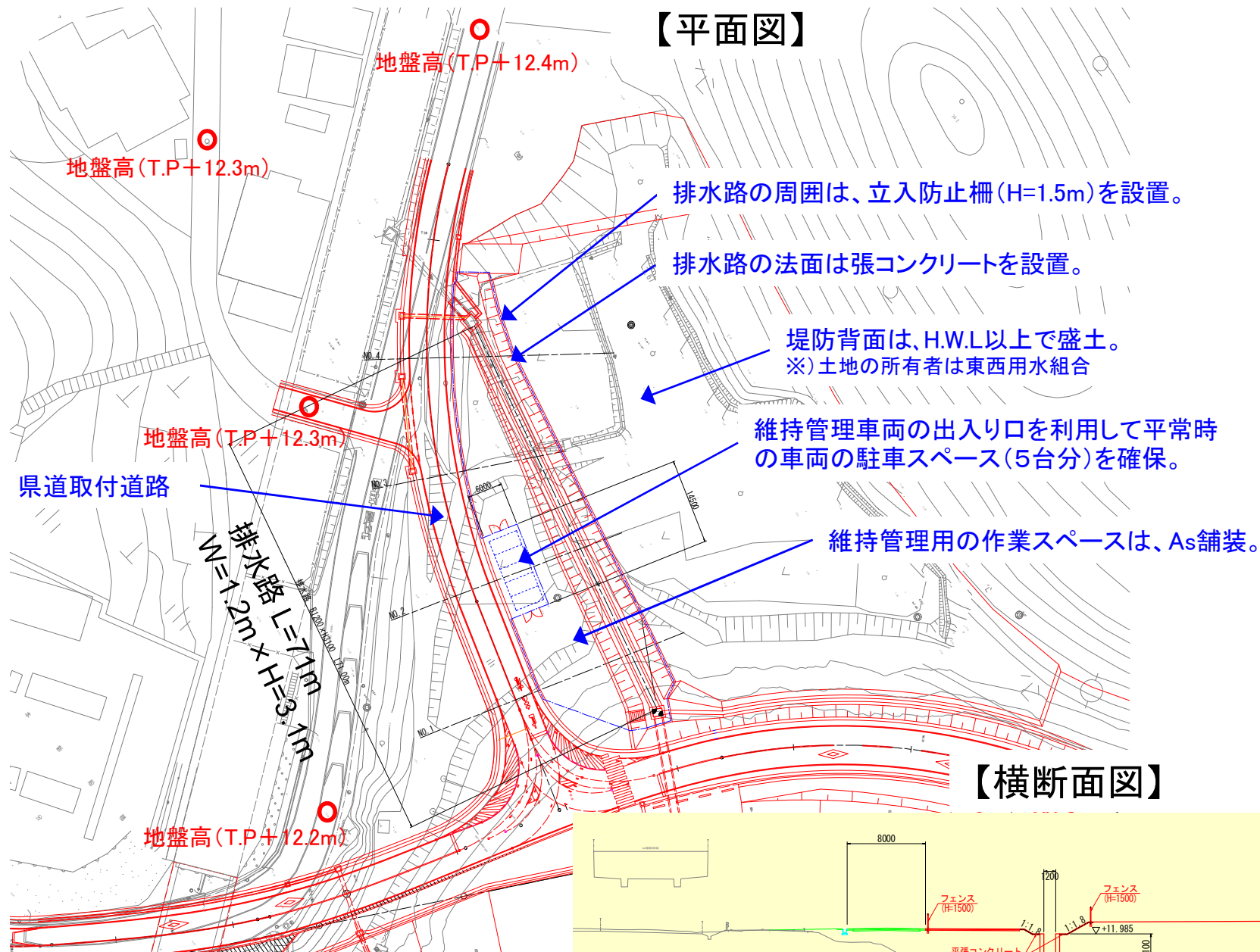
標準横断面図⑤(耕作地付近)



標準横断面図⑥(締切堤防付近)



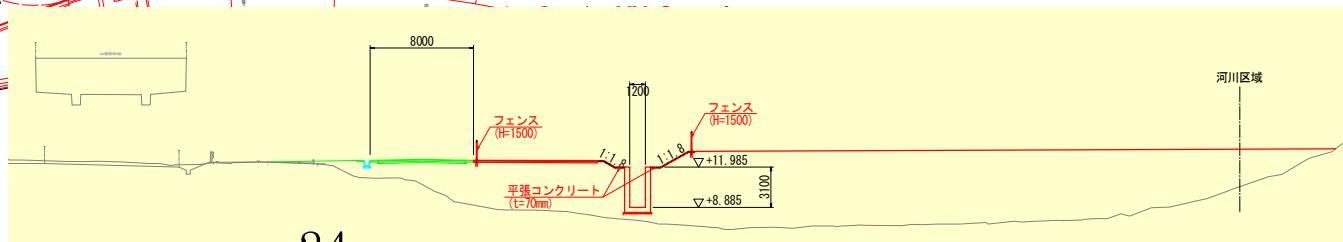
大谷地区排水施設の概要



確率規模: 1/5
降雨強度: 71mm/hr
計画流出量: 2.71m³/s

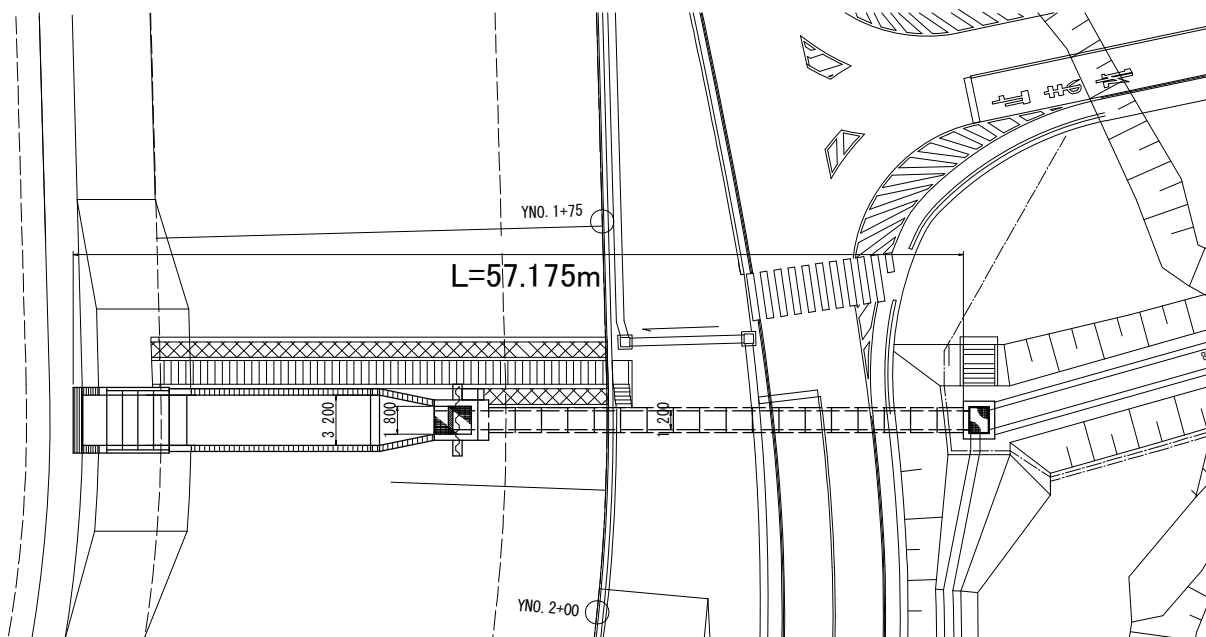
参考: 計画高水位 (H.W.L.)
(T.P.+11.487m)

【横断面図】

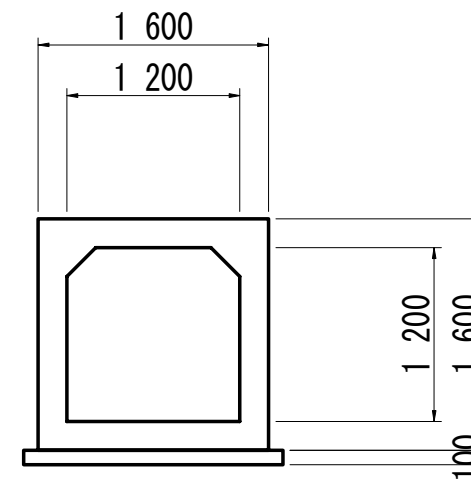


大谷地区排水工(一般図)

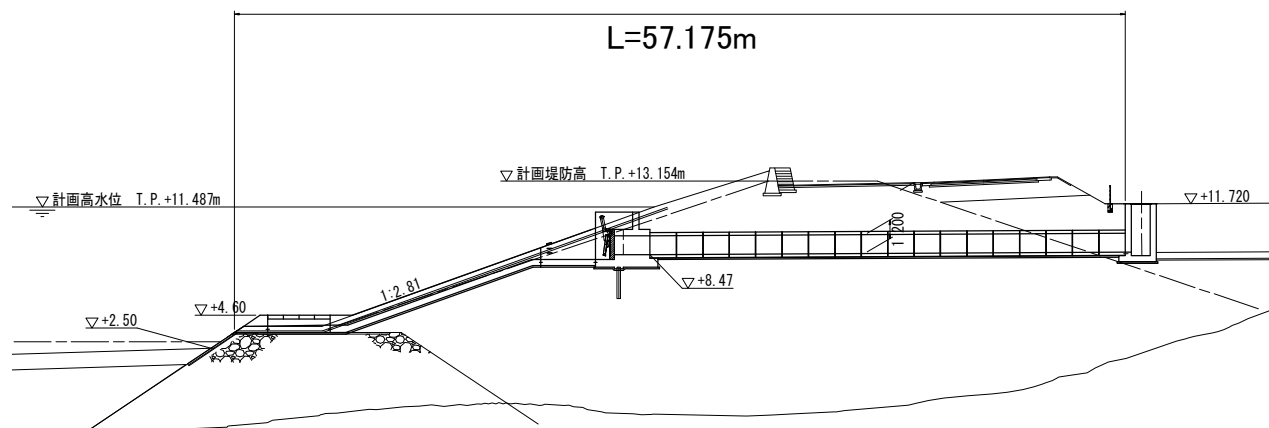
【平面図】



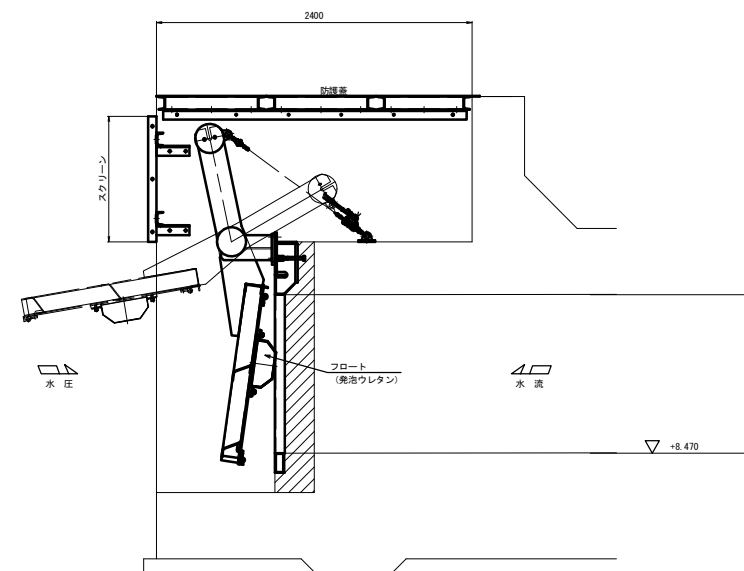
【函渠工】



【横断面図】



【ゲート構造図】



※) 排水機場と同様、バランスウエイト式(スクリーン付)を採用。

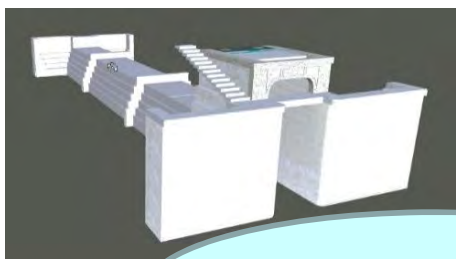
歴史文化の保存(樋管の銘板)

小田川付替え工事に伴う樋管(柳井原貯水池放水樋管、柳井原貯水池排水樋管)等の保存について検討を行ってきたところです。

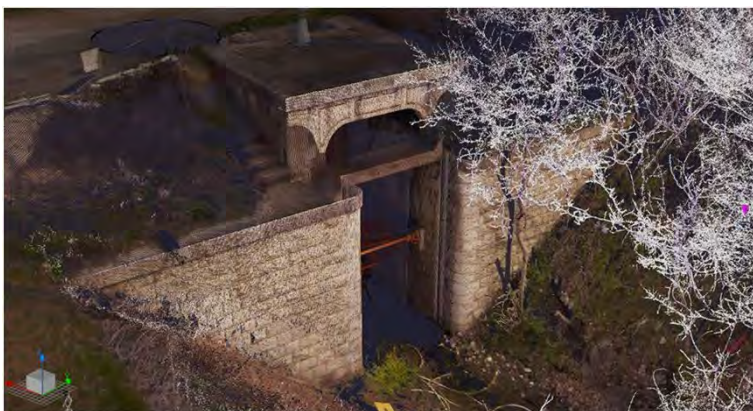
国では、写真や図面、3次元データによる保存のほか、令和3年8~10月にかけて銘板の切断を行いました。銘板等の一時仮置き場所は、柳井原小学校横の倉敷市所有地に仮置き中です。

なお、最終の保存先及び保存方法については、引き続き、協議のうえ、決定します。

【3次元データの作成:作成済み】



既往図面を参考に樋管の3次元の構造物モデルを作成

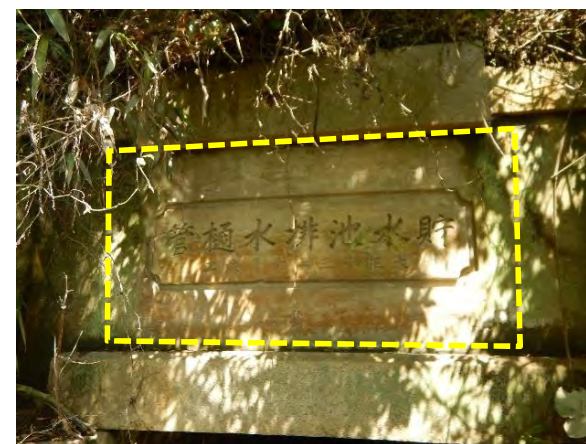


測量データに構造物モデルを組み込み、3次元データが完成。パソコン上で色々な角度から放水樋管の様子を見ることができます。

【樋管の銘板の移設について】

銘板は、コンクリート製で樋管本体と一体的に造られています。ブレーカーでは、コンクリートが破損する恐れがあるため、ワイヤーソーイング工法(※1)により切断しました。

保存する範囲は、下記のとおり、銘板部より少し大きめに切り出しました。(R3.10.26撤去完了)



銘板の切り出す範囲(左:放水樋管、右:排水樋管)

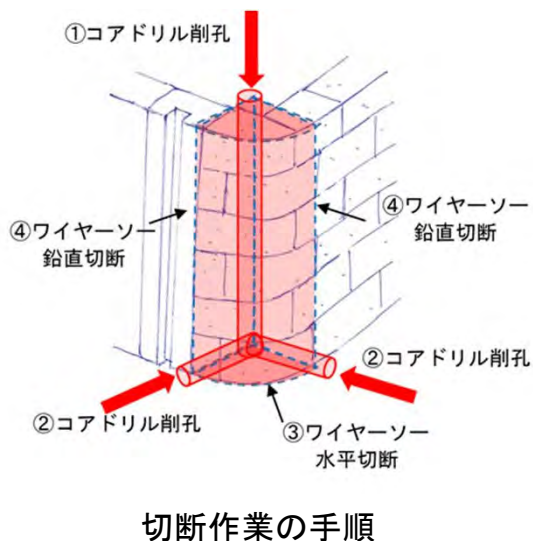
※1)ダイヤモンドワイヤを駆動モータによってワイヤに一定の張力を与えながら高速循環させ切断する工法。

歴史文化の保存(樋管の量水標)

撤去する樋管(柳井原貯水池放水樋管、柳井原貯水池排水樋管)には、それぞれ石製の異なる量水標が設置されており、令和3年6~7月にかけて石材の切断を行いました。(引き続き、保存方法について協議予定)

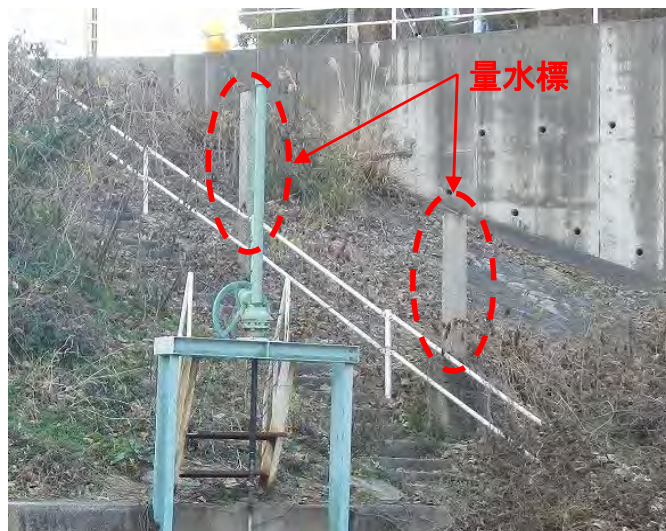
【放水樋管の量水標の保存について】

量水標は、胸壁の角に石材とコンクリートで設置されています。ブレーカーでは、石材が破損する恐れがあるため、ワイヤーソーイング工法(※1)により切断しました。保存する範囲は、状態の良い部分1.5m(石材5段分)程度を切断し、保管中です。(R3.7.20撤去完了)



【排水樋管の量水標の保存について】

量水標は、20cm四方の石柱が2箇所設置されており、コンクリート基礎より上の石柱部を切断し、保管中です。(R3.6.23撤去完了)



※1)ダイヤモンドワイヤを駆動モータによってワイヤに一定の張力を与えながら高速循環させ切断する工法。

歴史文化の保存(量水標、銘板の切断状況)



【量水標の切断状況：排水樋管】



【銘板の切断状況：放水樋管】



【量水標の切断状況：放水樋管】

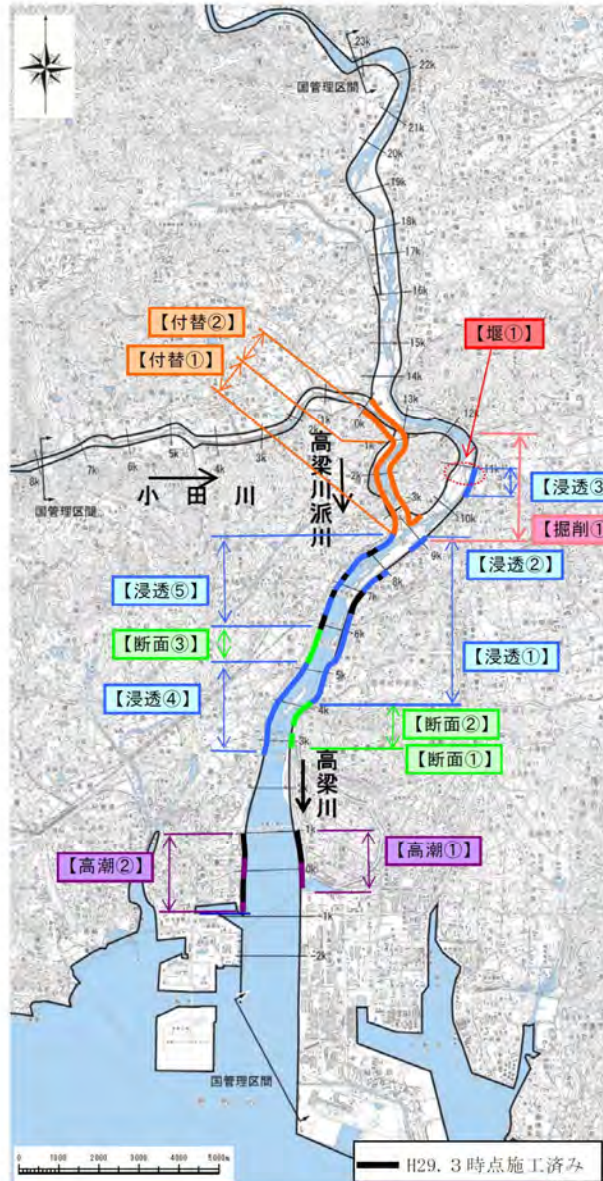


【ワイヤーソーによる石材の切断状況：放水樋管】

高梁川下流地区の河川整備計画

高梁川水系河川整備計画【国管理区間】(平成29年6月変更策定) 抜粋

整備実施区間の位置図



※図中の番号は表5.1.2、表5.1.3に対応する位置図番号により場所を表示
図5.1.2 河川の整備を実施する区間の位置図
(高梁川下流地区(河口～酒津地先)・高梁川派川)

表5.1.3 河川の整備を実施する区間(高梁川下流地区(河口～酒津地先)・高梁川派川)

河川	整備内容	地先名	区間	位置図番号
高梁川	築堤 (断面確保)	西之浦地先	2.8k～3.2k 左岸	【断面①】
			3.4k～4.2k 左岸	【断面②】
		玉島地先	5.1k～6.0k 右岸	【断面③】
高梁川	堤防補強 (浸透対策)	片島・西原地先	4.2k～8.0k 左岸	【浸透①】
		水江地先	8.7k～9.1k 左岸	【浸透②】
		酒津地先	10.5k～10.9k 左岸	【浸透③】
		上成地先	2.7k～5.1k 右岸	【浸透④】
		船穂地先	6.0k～8.7k 右岸	【浸透⑤】
高梁川	河道掘削 (注)	酒津地先	9.0k～11.6k	【掘削①】
高梁川	笠井堰 左岸堰改築 (可動化)	酒津地先	10.8k	【堰①】
高梁川派川	小田川合流点 付替え	水江・柳井原地先	-3.4k～-1.0k 左右岸	【付替①】
小田川		南山地先	-1.0k～0.0k 左右岸	【付替②】

注) 実施に際しては、今後の河床変動等により、新たな工事が必要となる場合や内容の変更が発生する場合があります。

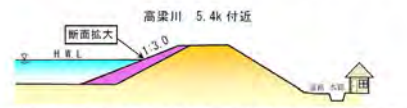
- ＜整備手順＞
1. 小田川合流点付替え及び高梁川下流地区の築堤など
 - ① 流域内で人口、資産が集中する倉敷市街地区間に位置する本川酒津地先、及び過去幾多の甚大な被害が生じている小田川合流点付近の洪水時の水位低下を図る抜本的な対策として、小田川の合流点付替えを実施します。
高梁川と小田川を分離する締切堤を設置する際には、左右岸バランスを考慮し、古地地先の堤防補強を実施するとともに、本川で現況の河積不足が生じないように、河積確保に努めます。
 - ② 倉敷市街地が拡がる下流地区においては、小田川合流点付替え完了までに、堤防の断面が不足する部分の築堤(断面確保)、堤防補強(浸透対策)を実施します。また、高潮対策区間の築堤及び必要な耐震対策についても順次実施します。
 - ③ 小田川合流点付替え完了後に、新合流点から上流の笠井堰の左岸堰改築、河道掘削を実施します。

2) 築堤(断面確保)

高梁川(西之浦地先: 2.8k～3.2k 左岸)【断面①】
(西之浦地先: 3.4k～4.2k 左岸)【断面②】
(玉島地先: 5.1k～6.0k 右岸)【断面③】
当該区間では、堤防断面の不足している区間の断面を拡大し、断面確保の整備を実施します。



図5.1.5 高梁川 築堤(断面確保)の位置図(4.0k～8.0k付近)



注) 実施に際しては、背後地の状況の変化等により、堤防の形状が変わる場合があります。

図5.1.6 築堤(断面確保)のイメージ図

3) 堤防補強(浸透対策)

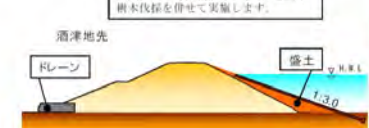
高梁川(片島・西原地先: 4.2k～8.0k 左岸)【浸透①】
(水江地先: 8.7k～9.1k 左岸)【浸透②】
(酒津地先: 10.5k～10.9k 左岸)【浸透③】
(上成地先: 2.7k～5.1k 右岸)【浸透④】
(船穂地先: 6.0k～8.7k 右岸)【浸透⑤】

浸透に対する安全性照査の結果から対策が必要とされた区間について、堤防補強を実施します。



図5.1.7 高梁川 堤防補強(浸透対策)の位置図(4.0k～8.0k付近)

底土によって河積が減少しないよう、樹木伐採を併せて実施します。



注) 実施に際しては、区間ごとの状況等について検討を行い最適な工法を採用します。

図5.1.8 堤防補強(浸透対策)のイメージ図



堤防補強におけるドレーン部の施工状況(高梁川10.2k左岸側、倉敷市酒津地先)

小田川付替新合流点から下流の今後の整備予定(1)



小田川付替新合流点から下流の今後の整備予定(2)



堅磐谷地区付近(小田川付替新合流点付近)の今後の整備予定

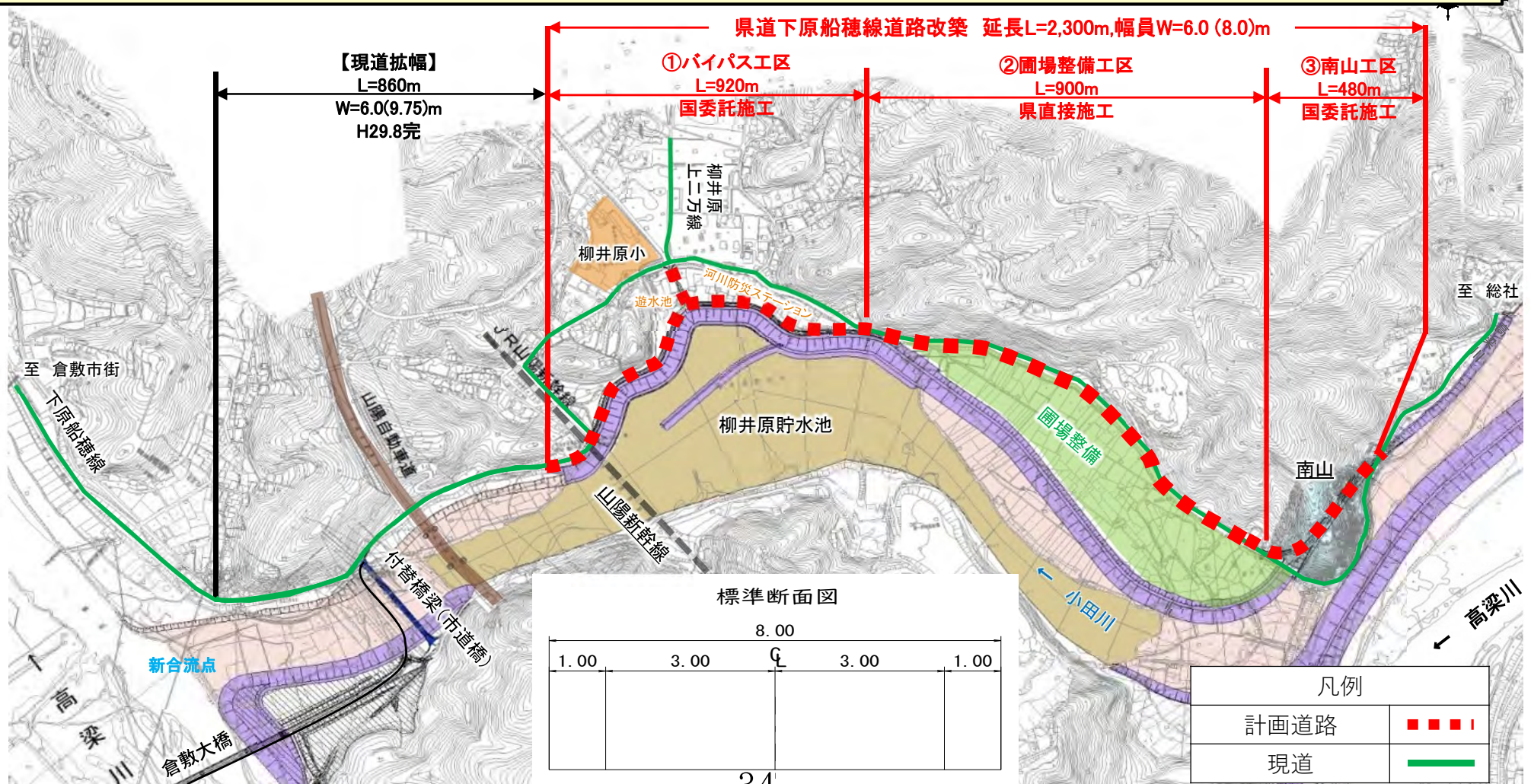


県道下原船穂線の道路整備について

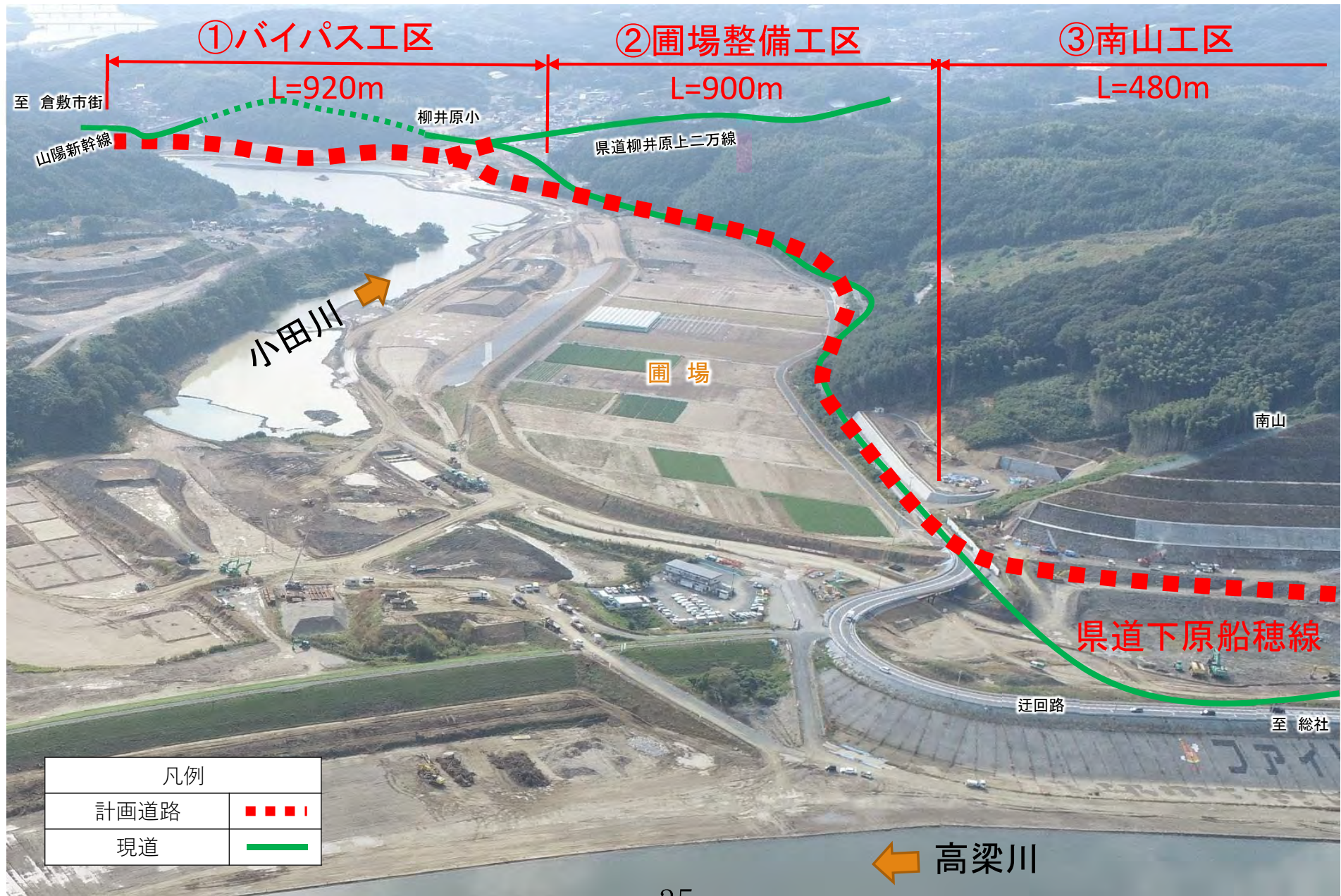
令和3年11月21日
岡山県備中県民局建設部

道路計画の概要（全体計画）

- ・小田川合流点付替え事業に併せて、県道下原船穂線の延長2300m道路整備を実施。
標準幅員W=8mで整備。⇒ 車道3m×2車線＋路肩1m×両側
- ・①バイパス工区、②圃場整備工区、③南山工区の3工区に分けて整備。
(①③は工事を国へ委託、②は県で実施。)

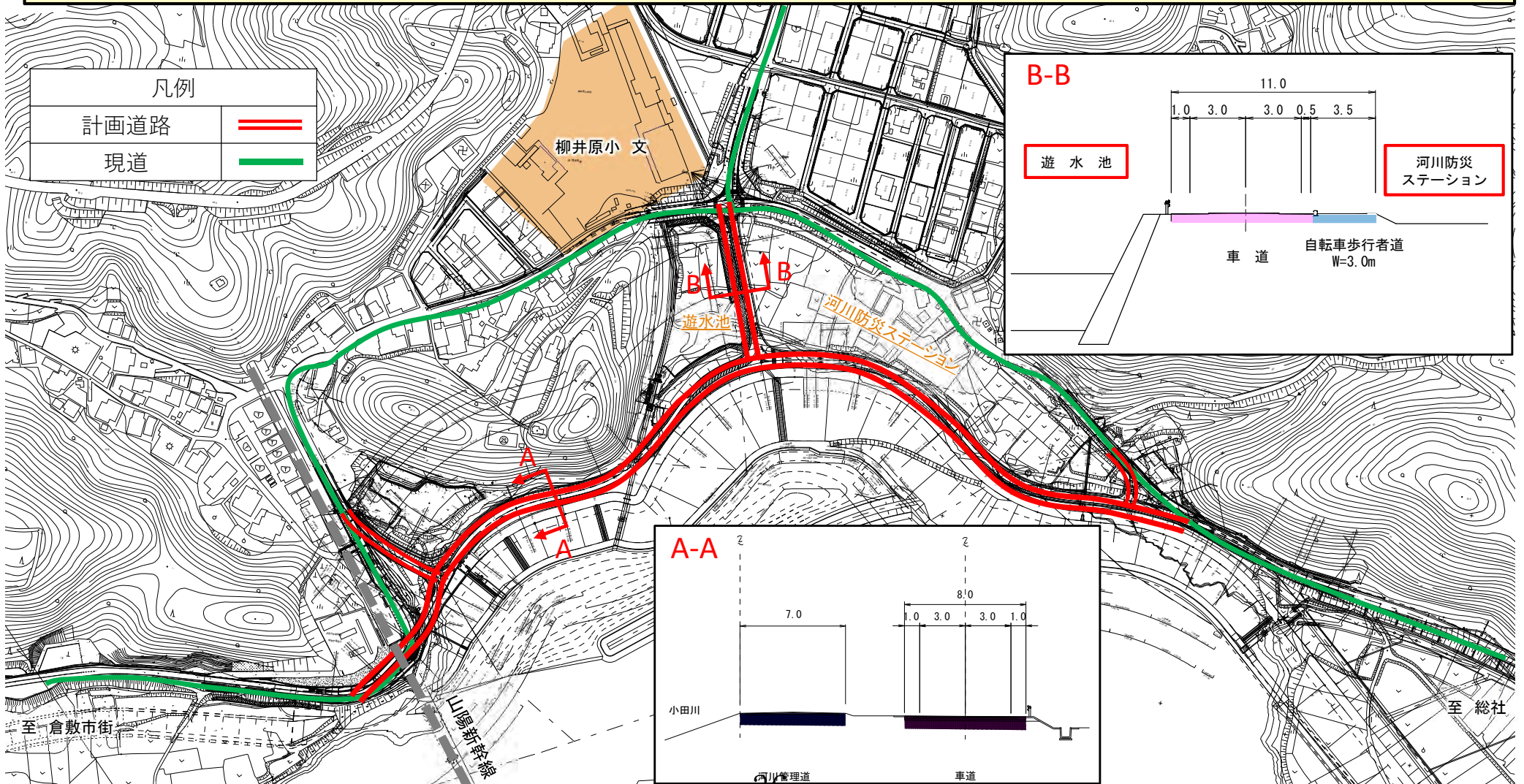


道路計画の概要(全体計画イメージ)



バイパス工区の概要

- ・河川堤防に並行するルートでバイパス方式により延長920mを整備。(A-A断面)
- ・併せて、柳井原小学校前の県道柳井原上二万線をバイパスまで延伸。(B-B断面)
- ・バイパス道路完成後、現道の県道下原船穂線は市道へ移管予定。



バイパス工区のイメージ (柳井原貯水池から柳井原小学校を望む)

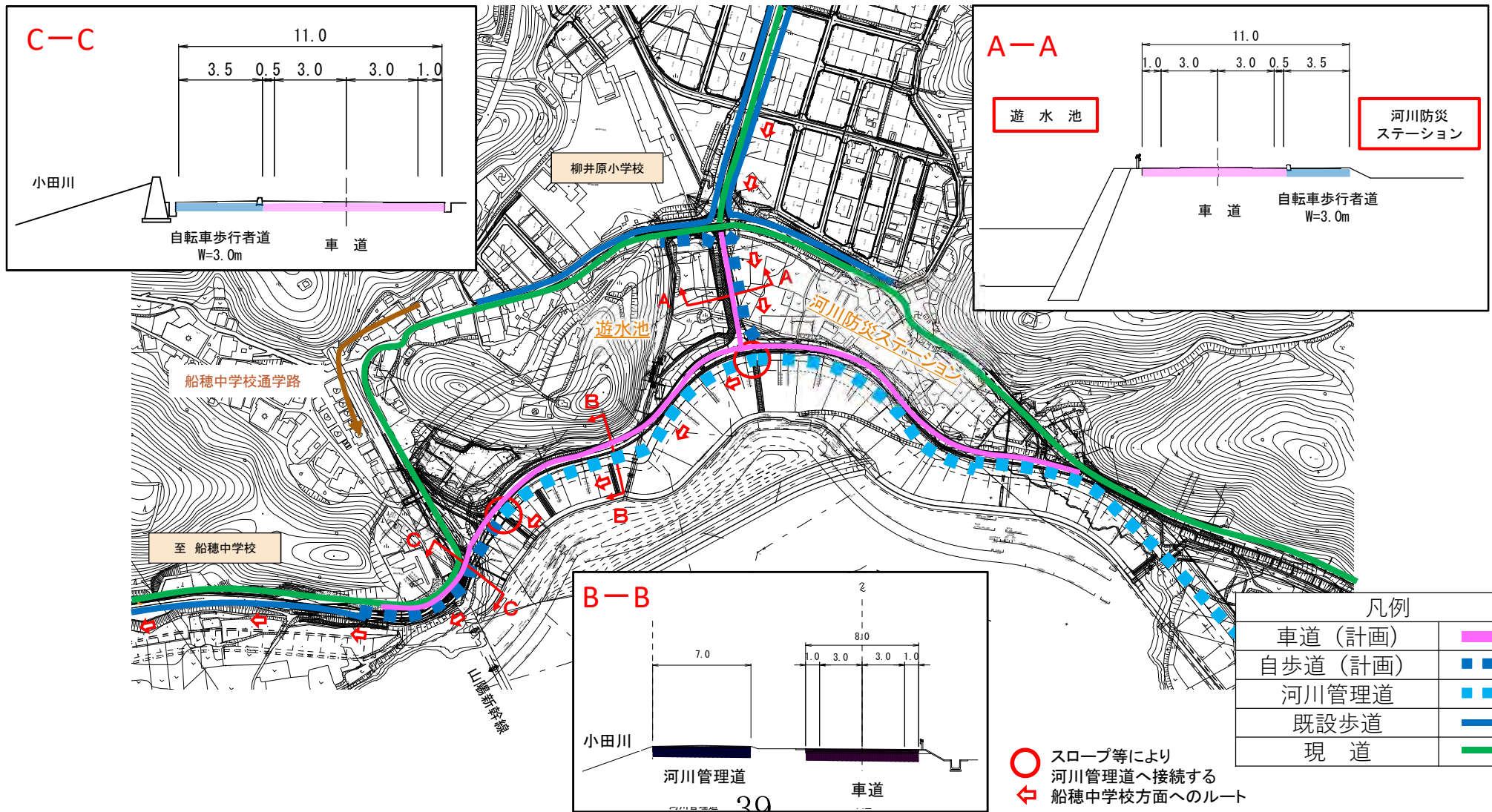


バイパス工区のイメージ(山陽新幹線下流側から上流を望む)



バイパス工区の自転車歩行者道等の整備 (柳井原小学校から船穂中学校まで)

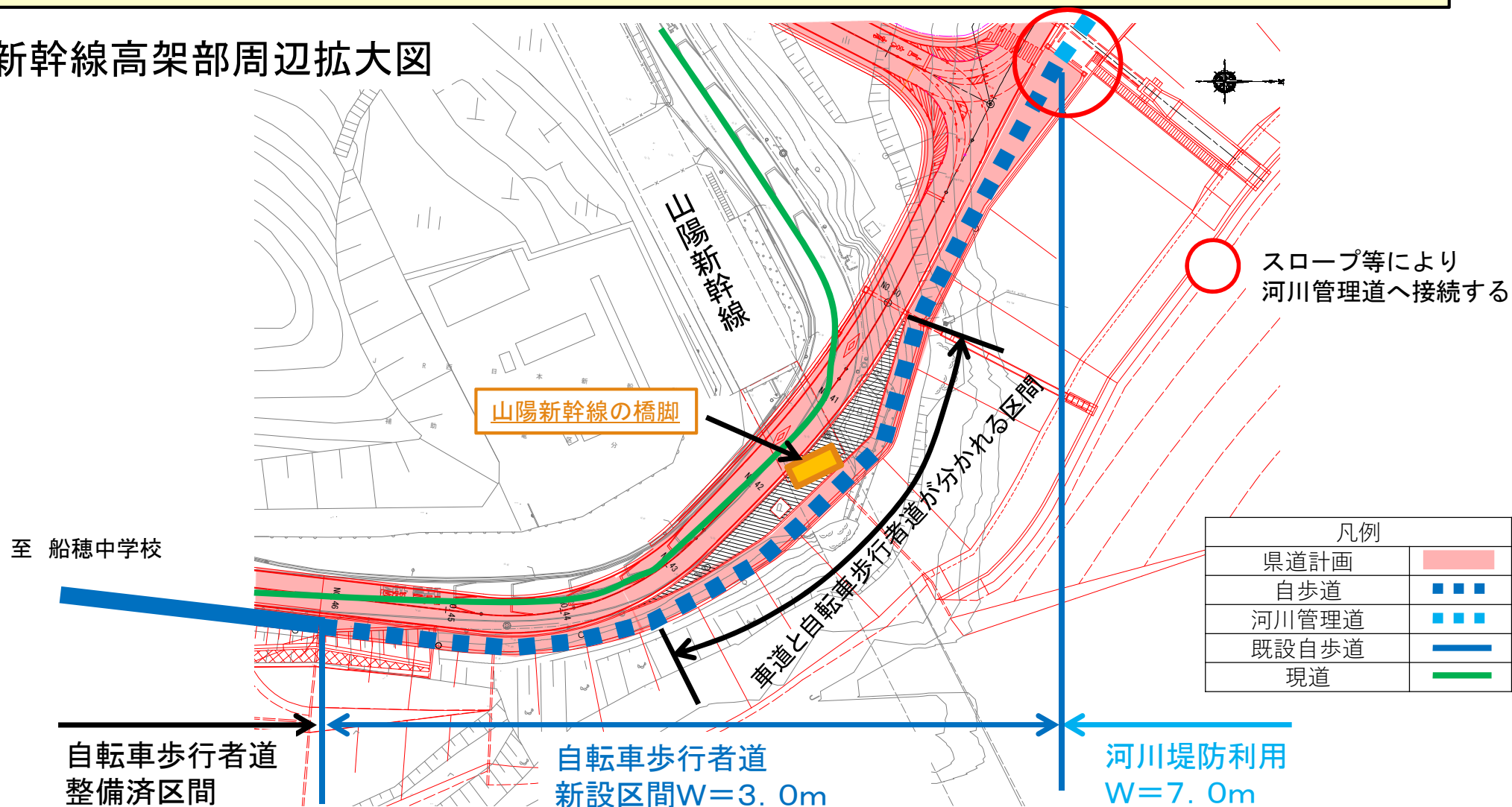
- ・柳井原上二万線の延伸区間は防災ステーション側にW=3.0mの自歩道を整備。(A-A断面)
- ・県道下原船穂線のバイパス区間は並行する河川管理道W=7.0mを利用可能。(B-B断面)
- ・新幹線高架下区間はW=3.0mの自歩道を整備。(C-C断面)



自転車歩行者道の整備（山陽新幹線高架下周辺）

・山陽新幹線高架下の自歩道については、山陽新幹線の橋脚を避けるため、一部、県道の車道と分離しますが、自歩道の幅員 $W=3.0\text{m}$ を確保。

新幹線高架部周辺拡大図



バイパス工区の交差点計画について

○交差点計画について

・4箇所の交差点については、「一時停止」により整備。（※玉島警察署コメント）

○交差点照明について

・4箇所の交差点に交差点照明を設置。



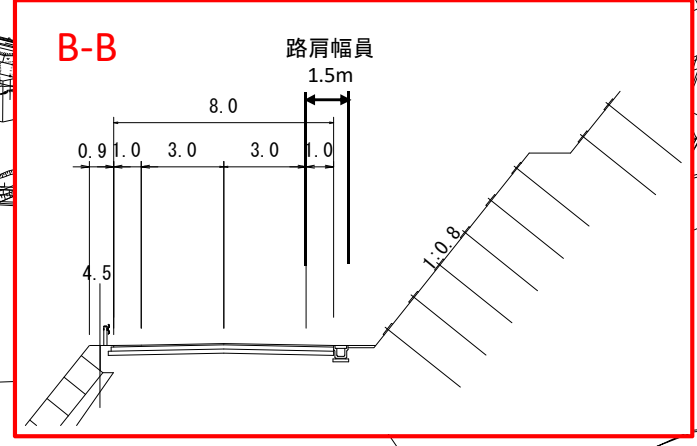
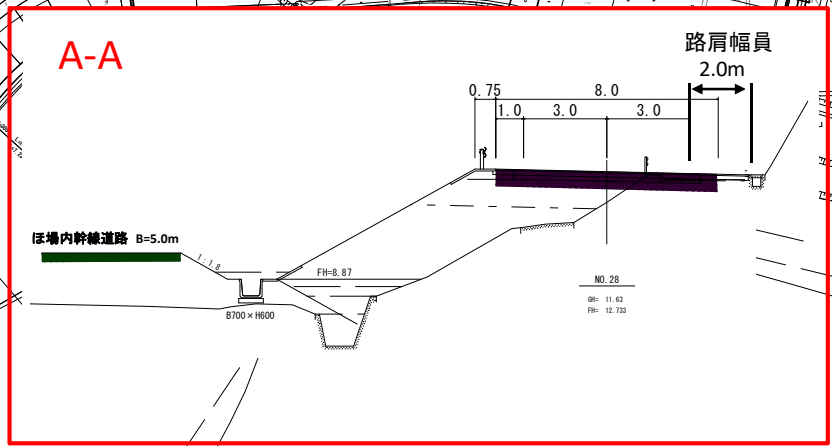
○交差点の信号機設置について（玉島警察署）

- ・県内で新しく設置できる信号機は非常に少ない状況です。
- ・現在の交通状況では、信号機を設置しなくても円滑な交通が確保できています。
- ・バイパスが開通することで交通が分散されより円滑な交通状況となり、現在の状況を維持できるものと考えられます。
- ・道路の開通に合わせて信号機の設置は予定していませんが、今後の交通状況によっては信号機の設置を検討させていただきます。

圃場整備工区・南山工区の概要

- 圃場整備工区は現道を圃場側へ拡幅し、線形改良を行うとともに必要な幅員を確保。(A-A断面)
- 南山工区は小田川合流点付替え事業に伴い、山側に県道付替を行うとともに、必要な幅員を確保。(B-B断面)

凡例	
計画道路	
現道	



圃場整備工区のイメージ(下流から上流を望む)



南山工区のイメージ (高梁川から南山を望む)

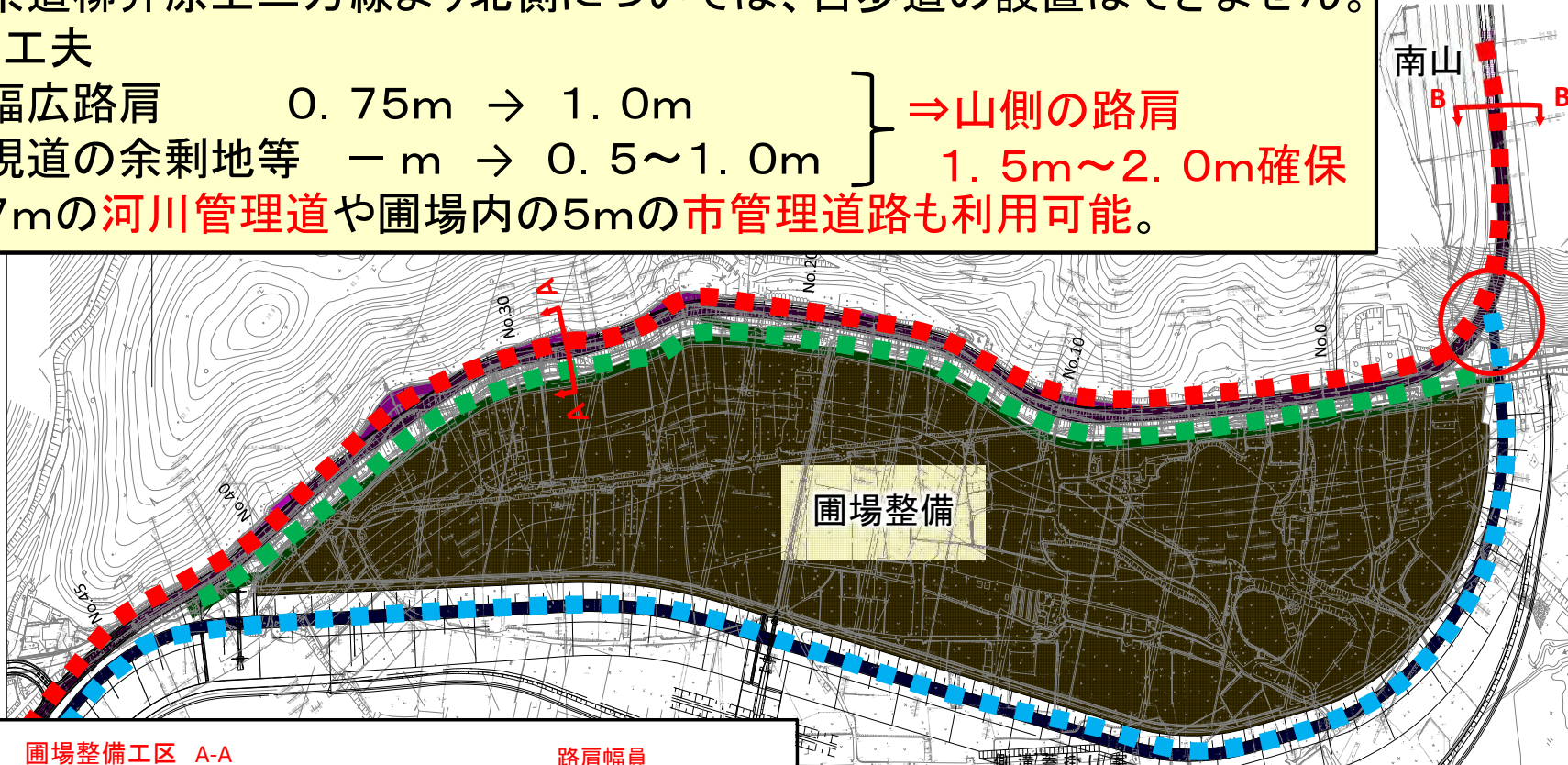


県道柳井原上二万線より北側の歩行者・自転車の動線

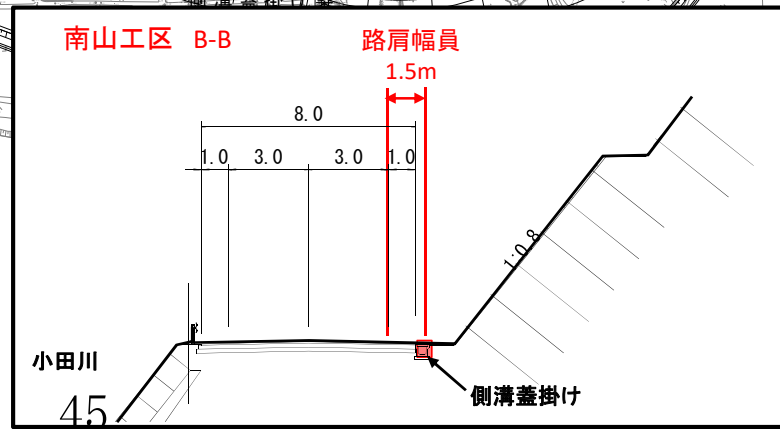
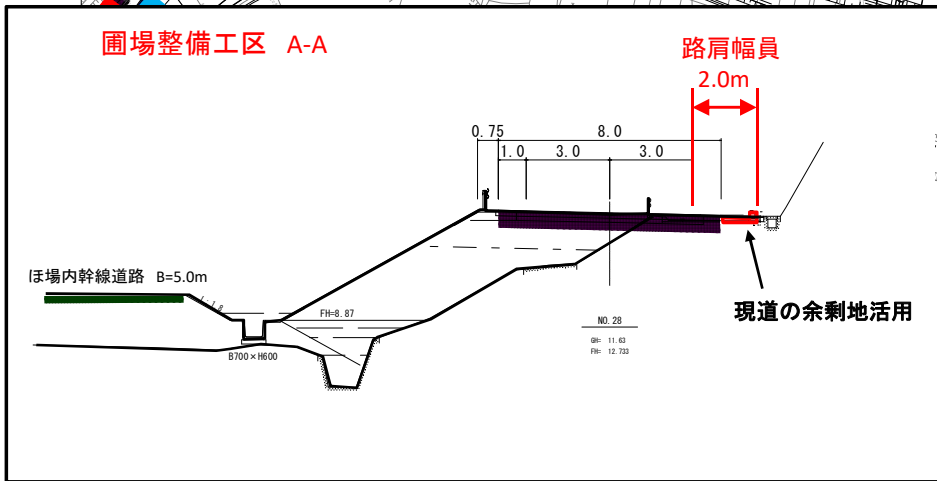
・県道柳井原上二万線より北側については、自歩道の設置はできません。

○工夫

- ・幅広路肩 0.75m → 1.0m
 - ・現道の余剰地等 - m → 0.5~1.0m
 - ・7mの河川管理道や圃場内の5mの市管理道路も利用可能。
- ⇒山側の路肩
1.5m~2.0m確保



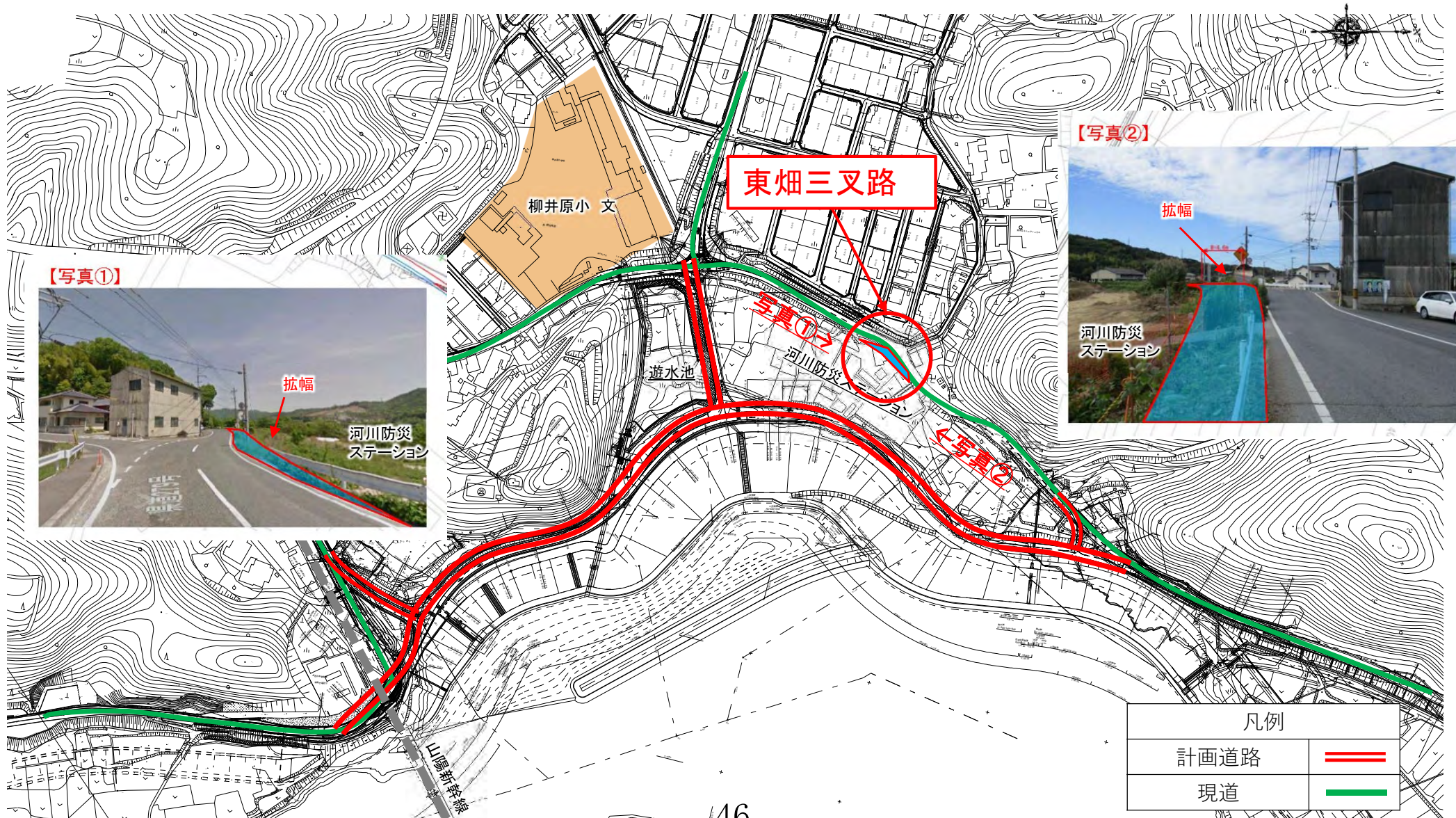
○ スロープ等により
河川管理道へ接続する



凡例	
車道 (県道計画)	■ ■ ■
河川管理道	■ ■ ■
市道 (予定)	■ ■ ■

その他(東畑三叉路の拡幅)

東畑三叉路について、河川防災ステーション側へ拡幅し、2車線確保。



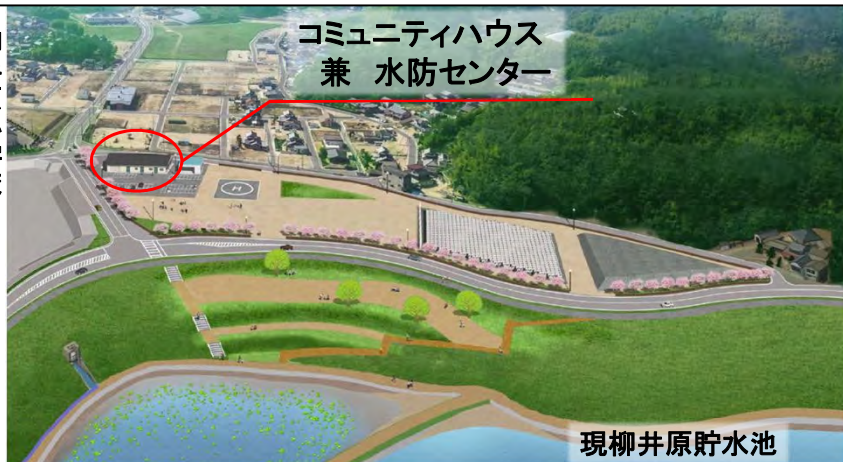
-
- コミュニティハウスを兼ねた
水防センターの整備
 - 柳井原地区 ほ場整備事業の状況
-

令和3年11月21日
倉敷市

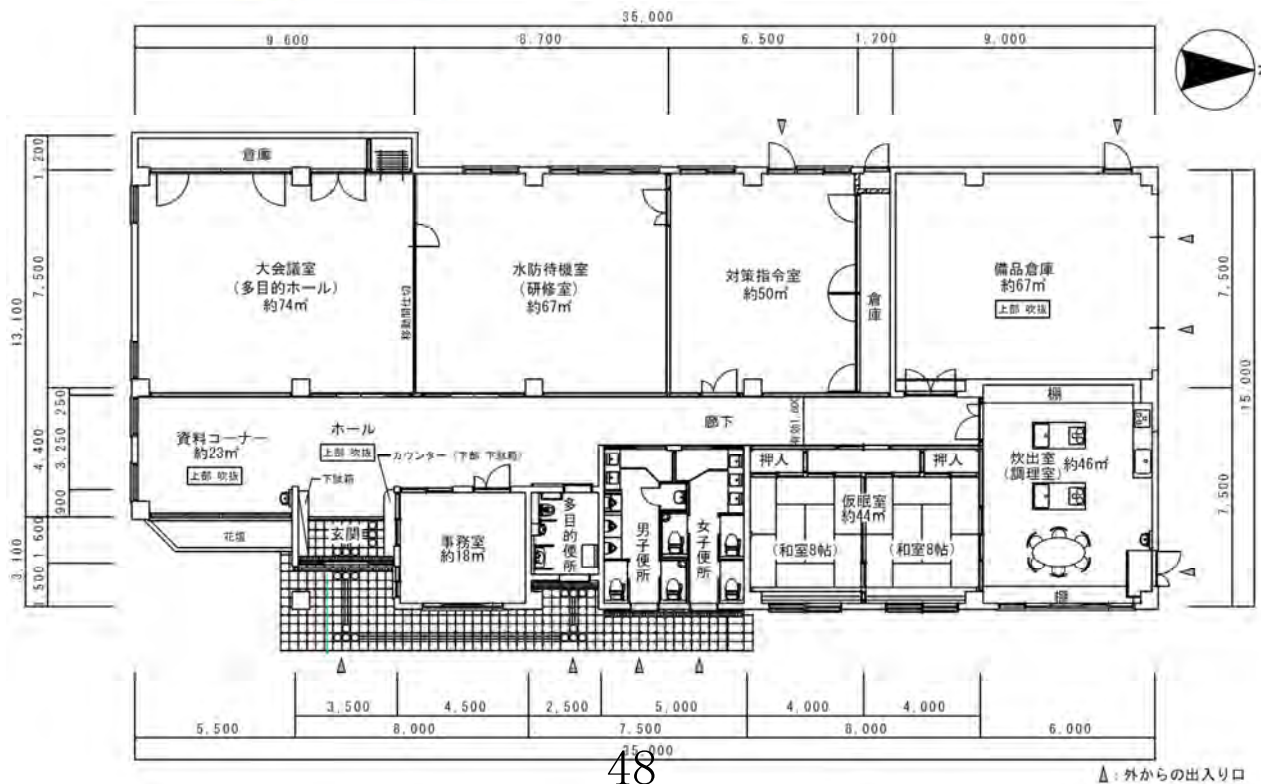
コミュニティハウスを兼ねた水防センターの整備

平常時には地域の人々の交流や憩いの場や河川を中心とした文化活動の拠点として、また、洪水時等の緊急対応を迅速に行うため、コンクリートブロック等の資材の備蓄や河川管理保全活動及び迅速な緊急復旧活動を実施する拠点として、**国と市で柳井原地区河川防災ステーションを整備**します。

柳井原小学校



※上記はイメージ図であり、今後変更する場合があります



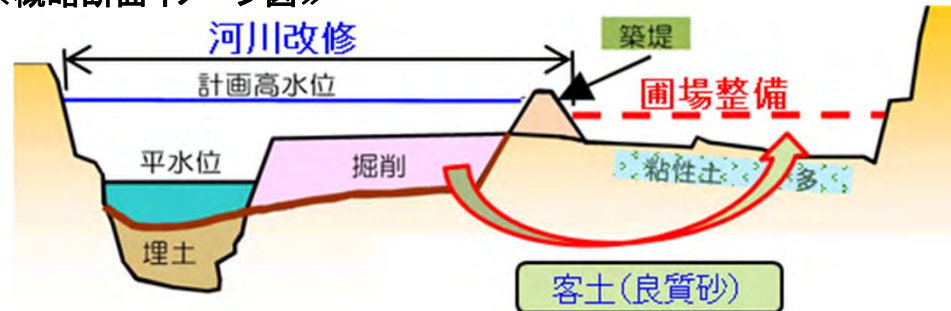
小田川合流点付替え事業により、柳井原貯水池周辺の農地の一部が河道等となり、その良質な砂質土壌を生かして古くから栽培されていた特産品の金時人参や春大根の耕作が出来なくなるため、耕作者の生活再建と特産農作物の生産維持・復興を図ることを目的として、河川事業と並行してほ場整備事業を実施



地区の特徴 ～良質な砂地農地の整備～

河川工事の河道掘削で発生する残土のうち良質な砂質土を用いて客土することで、比較的粘性土分が多いほ場整備計画地に優良な畑地を整備

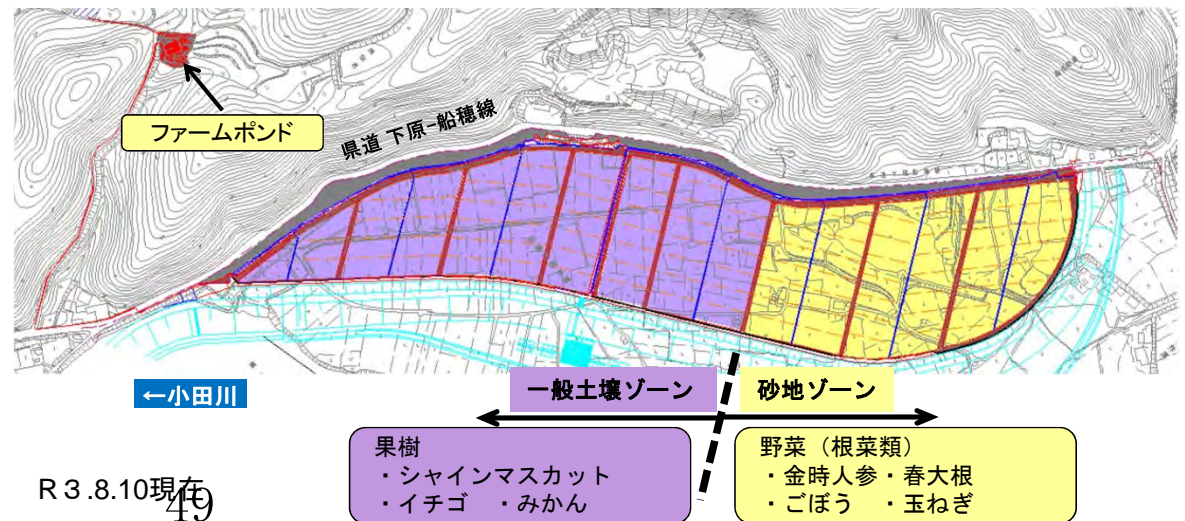
＜概略断面イメージ図＞



＜ほ場整備の概要＞

- ・ほ場面積 10.1ha(102区画)
- ・整備内容 区画整理(ほ場、道路、用排水路) 暗渠排水、農業用排水施設
- ・事業主体 倉敷市
- ・事業名称 農地耕作条件改善事業
- ・事業費 392,000千円(R3.4時点)
- ・事業期間 平成29年度～令和3年度 (平成30年工事着手)

＜整備後の土地利用:砂地(野菜)と一般土壌(果樹)でゾーンを分割＞



- ほ場整備事業は、令和3年度末の完成に向けて工事を実施中
- 農地購入希望者募集は、船穂農業公社より応募を受付中
 - ・現在、102区画中73区画(約7.2ha)の入植者(13名)が決定
 - ・うち、金時人参16区画はR2年度に入植・出荷済、シャインマスカット3区画はハウス建造・耕作中

